



地方選——私が立ちます 地域と平和を守りぬきます

310号 新宿発

いまいちばん言いたいこと

石崎雅子／阿部知子／桑原ちえ子／糸井玲子／斎藤一美／山下智恵子／八代紘子
坂口 郁／岡田黎子／金澤 泉／佐藤 公／堀尾陽子／増村秀一／堀場清子

吉田ていこ さわやかな市政を
谷内 清子 ゆたかな福祉をもとめて
広岡たつみ 支えあいともに歩みます
小野きみ子 住む人のための町づくり
佐藤ひろ子 いっしょに生きたいネッ！
山本ひとみ 政治を変える年
小川ひろみ こだわって地域変えます！
清水 絹代 「金権山梨」にチャレンジ
高橋かずえ 「女性記者の目」で市政を
阿部 悦子 環境・平和を守る政治を！



わたしは 何のために 今ここにいるのか？

きのう言った あのことも

きょうやった あのことも

さっき思った あのことも

すべては向かう「生きる意味」の方向へ

そこに在る言葉は「しあわせ」……

わたしたちは なぜ 現在^{いま}ここにいるのか？

こどものように笑いあったこと 泣いたこと

怒りに からだどころが うちふるえ共鳴したこと

熱く そして しつとりと語り合ったこと

すべては向かう「人間らしく生きる」方向へ

そこに在る言葉は「平和」……

ひとりひとりが「しあわせ」に生きるために

そのためになくてはならない「平和」のために

わたし わたしたちは生きている

△あごろ△は そんなひとりひとりの 応援団でありたい……

「私の一票」で日本を変えよう

教育基本法が改悪され、憲法九条改悪は、政府の日程にすっかり組み込まれました。

貧富の差はますます拡大し、億万長者が急増する一方、国民健康保険料も納められない、低所得層が激増しています。

「どう考えてもおかしい」世相に、絶望的になりがちですが、私たちは、一人ひとり誰でも、この状況を変える力を持っているはずです。

四月、地方選挙。七月には参議院選挙。この上ない大逆転のチャンスです。

私の、あなたの、一票で、状況を変えましょう。

「女性参政権の獲得」に生涯を賭けた市川房枝さんの言葉を思い出します。

「権利の上に眠るな」

市川さんはじめ、多くの先輩女性たちが、身を賭して獲得した「一票の権利」を、決して眠らせまい。

四月、その先頭に立つ十一人の〈あごらメイト〉はじめ、志ある方がたの必勝を祈って、この号をお届けします。

『あいら』 310号 目次

「私の一票」で 日本を変えよう	編集部	1
「女性と政治キャンペーン」——まず足もとから女性を出そう	山下 清子	4
三度目も立ちます。そして さわやかな市政に変えます	宮城県白石市・市議 吉田ていこ	6
ゆたかな福祉をもとめて三期目に挑戦します	富山県・県議 谷内 清子	14
支えあい ともに歩みます	石川県・県議 広岡たつみ	24
「住む人のための町づくり」を願って五たびチャレンジします	東京都新宿区・区議 小野きみ子	36
いっしょに生きたいネッ！ひとりひとりを大切に	東京都中野区・区議 佐藤ひろこ	44
政治を変える年	東京都武蔵野市・市議 山本ひとみ	52
こだわって地域——変えます！議会 つくります！仕事	東京都国立市・市議候補 小川ひろみ	62
〈三たびのチャレンジ〉への思い	山梨県都留市・市議候補 清水 絹代	68
「女性放送記者の目」で岐阜市政に切り込みます	岐阜県岐阜市・市議候補 高橋かずえ	72
環境・平和を守る政治を！	愛媛県・県議 阿部 悦子	80

一〇一歳の母を看とって.....	石崎 雅子	92
内向きな論議、閉ざされた社会——〈主張する日本〉であってほしい.....	阿部 知子	93
選挙でこそ日本を変えられる.....	桑原ちえ子	96
われらの教育基本法を生かし続ける.....	糸井 玲子	96
「福祉重視の首都行政の確立を！」住みなれた東京で安心して老いるために.....	斎藤 一美	100
いま言っておきたいこと.....	山下智恵子	101
権利の上に眠るな.....	八代 紘子	104
「過労死は自己責任」発言に怒る.....	坂口 郁	104
「美しい国」ってなんですか.....	岡田 黎子	106
「冷たい頭を持ちたい」.....	金澤 泉	108
選挙にのぞむこと.....	佐藤 公	109
「あぐら」.....	堀尾 陽子	110
弟に語る 独り語り.....	増村 秀一	112
詩 泥船.....	堀場 清子	120
あぐらのあぐら.....		124

「女性と政治キャンペーン」 まず足もとから女性を出そう

山下 清子

四年に一度の統一地方選挙。今回も私たちは「'07とやま 女性と政治キャンペーン」を行うことにした。一九九九年の統一地方選挙の時からキャンペーンを行い、今度で三度目である。

一九九五年の選挙で高岡市の女性たちは県議・市議ともに女性議員を出そうと挑戦したが、二人とも次点という結果に泣いている。そこで、四年後にもう一度市議・県議ペア選挙を展開し、県政初の女性県議／谷内清子さんを当選させた。当時は全国で女性県議ゼロ県が一〇県あったが、富山県はじめ九県が女性県議を当選させた。また、市議選で尾崎憲子さんも当選させた。（第一四回統一地方選挙・高岡選挙区）

私は一九九一年から三回続けて女性議員を出す選挙を経験した。たいへん辛い思いをしたが、その体験が活動の基礎となっている。女性たちだけで選挙をするとき、責任をもつて関わる仲間が不可欠だ。いろいろな立場で応援する多くの女性たちがいないと当選できない。

高岡では、二〇〇三年も尾崎市議・谷内県議を再選。その後に行なわれた補欠選挙で社民党の市議（女性）が県議になり、高岡選挙区には現在二人の女性県議がいる。

今回の県議会選挙では合併のために、定員七名のところに一〇名の立候補者が予定されている。現

職一人が落ちることになるので、とても厳しい選挙となる。地域や政党を含めた大きな動きとなるわけで、女性たちの力が問われることになる。

富山県では、今年は合併の影響で、県議会と一つの村議会選挙のみ実施されるだけで、新しく立候補する女性はいない。まずは、富山県議会にいる三名の女性議員（一人は富山市の〈あごらメイト〉谷内清子さん）を当選させたい。キャンペーンで、棄権しないことを呼びかけたい。

三月八日、私たちは「国際女性デー 語ろう会」を開催した。会場とした高岡市男女平等推進センターは、まさに私たちが市に要望して実現した女性センターである。その場で、元小杉町長だった土井由三さんを招いて、「自信を持って発言を 市民参画のすすめ」という演題で話してもらった。当日は四〇代・三〇代の参加者もあり、活発な議論となった。

これからは若い世代に活躍してほしいと思っている。政治に関心を持つ女性が少ない富山県では、「まず棄権をなくす」「政治に関心をもつ・政治の学習をする」というところから始める必要がある。富山でのキャンペーンは、参議院選挙に向けて八月まで続けることにしている。

全国各地で、〈あごら〉の方たちが動いておられると思う。

富山のような、比較的保守的な土地でも、前回、県議一人、市議二人の〈あごらメイト〉が当選された。

「とにかく候補者を立てること」、そして「必ず当選させること」。どこにも希望の火種はある。

「まず足もとから」女性を立てましょう。そして当選させましょう。

（富山市在住）

三度目も立ちます。そして さわやかな市政に変えます

宮城県白石市 市議 吉田 ていこ

白石市は仙台から車で一時間。昼間は仙台で働く人も多い衛星都市です。

私は六年半前の二〇〇〇年一〇月のある朝、突然に、市議会議員への窓が開けられました。

立候補補診、決意、職場退職、この間二週間足らず。そして告示、投票日。四三歳の誕生日に、当選証書が授与されました。

あまりにも突然な「議員への道」に、私を突き動かしたものは、何だったのでしょうか。

二五年間、白石市議会に女性議員がいなかったこと、そして私のような普通の「働く主婦」(選挙中に友人がつけたキャッチフレーズ、言い当てて妙)の登場は、市政を動かすことができないとあきらめていた市民に、「勇気の光となる」はずだとの思いでした。わけもわからず、とにかく暮らしの根底を変えるために何かをしなければと、突然職場を退職、チャレンジしたのです。幸運にも市議会議員にさせていただいたのは、「二五年ぶりの女性議員の誕生を」という大きな期待が女性たちを動かしたのだと思います。

その皆さんのご期待に応えようと、白石市男女共同参画推進条例の制定や、ごみ問題を含め、女性の視点を生かした市政運営に努力してきました。議会広報委員会、議会運営委員会、議会改革特別委

員会の副委員長として、開かれた議会を目指し、議会の活性化にも努めてきました。そして、議会改革のほとんど全部と言っていいほどの提案をさせて頂きました。そのなかで、議員全員の理解を得ることの難しさも経験しましたが、今後も、議会改革には努めていきたいと思っています。「さわやかな市政」の根幹は、主張すること、提案することが自由で、審議過程が透明であることだと信じますので。

先日終了した、二期目任期の最後の議会で、私は、「初心に帰らなければ」と気づかされました。この四年間、女性議員というよりも、早く一人前の議員になりたいとがんばってきたつもりでしたが、今議会の「休日保育」の議案審議で、私は感情的なほどに叫んでいたのです。

「働きながら子を育てる親の気持ちに本当にわかつているのか」と。

私は、働きながら子どもを育ててきました。この中で、安心して預けることができる一時保育や病児保育の必要性も感じ、ファミリーサポートセンターなどの施策展開に力を尽くし、一歩前進したと考えます。

とはいえ、両親がお互いに十分な時間をわちあって子育てできることが、本来の姿だとも思います。仕事と家庭の調和のあり方を、市も真剣にみつめなおす施策展開に力を尽くすことが、必要な時期です。だからこそ、つらかった母親としての体験を活かす時だと思っています。いや活かさなければならぬと、いつそう思うようになったのです。

今回、私の提言した「妊婦検診の助成」が実現し、実施が拡大されました。多くの女性のみなさんの声をまっとうな政策として提言して、その一つ一つが実現されていくのが、私の大きな使命だと、

改めて感じるようになりました。介護、医療、教育の場面でも、同様に積極的に提言していきたいと思っています。

財政の課題については、私は総務財政常任委員長の任をうけ、自分なりに二〇年間の白石市の財政分析をし、白石市の決算をもとに、この二〇年間（一九八五―二〇〇四年）の財政を、私が独自にグラフにしてみました。その一部をホームページにも掲載しました。経済学部で学んだとは言え、しろうとの私が作図した図ですから、ご専門の方がごらんになったら、ご批判があると思いますが、自分で苦労してグラフ化して、初めて市の財政の実態が見えてきました。そして、健全な財政こそ、市民を守る基礎という思いが、ふつふつと湧いてきました。

そこで発見したことは、市は、国から、交付税として返ってくる多くの借金によって、いわゆる「箱もの」や道路などを建設し、その借金を、「繰り上げ償還」という形で返済し、借金の額を減らしてきたという事実です。

いま、このやり方の分岐点にきています。「基金を取り崩していかなければ、これまで同様の施策展開ができない」状況が、この数年、続いているのです。今こそ、事業の見直しをきっちりしなければなりません。私は、このことを、懸命に議会で訴えてきました

行政改革では、ややもすると、職員の削減や給与削減が声高にいわれます。しかし、働く人びとをいじめて、なにかよいことがあるでしょうか。市は、もつとなすべきことがあります。そのことを真剣に提案できるのは私しかない、と思っています。一部の見方ではなく、市全体のあり方を、しっかり見て言える議員は、二〇年間の市財政を懸命に分析し、昼も夜も考え続けてきた私だ、と思っています。

また、最も大切な問題として、教育と平和について話させて頂きます。

「いざなぎ景気」え」といわれても、私たち庶民の所得は増えるところか、所得の格差が広がっています。「この格差が、教育の場面にもはつきり出てきている」との、議会答弁がありました。「ていこさんが質問してほしい」との、市民の方がたの声で、いじめの問題、学力の問題なども質問してきました。

これら教育問題の根元的なところにも、所得格差があります。お金持ちには豊かな教育が用意され、お金がない人は、教育の機会さえ奪われているのが、実態です。私は、教育の環境整備を、しっかりと目指していきたいと考えます。

昨年一二月、教育基本法が変わりました。「自分を大切にし、相手を大事に思い、大事にされ、生きていくことを目的とする」という「基本」が、「国を愛し、国のための人間となれ」という方向に変わったのです。とても残念です。これは、子どもたちに平和な社会を引き継いでいくという、私の政治信念と全く相反するからです。

最後に、高齢者の方がたへの負担が、年々いや毎月と言っているほど、増加しています。市では、生活保護世帯同様の暮らしをされている六五歳以上の方が三〇数名もおられるのに、「高齢者所得非課税措置が廃止される」との発表があり、私は驚いて反対しました。また、約一〇〇〇名の年金生活者が、新たに課税対象となり、所得税・住民税が、昨年は二万円から四万円、今年は、四万円から七万円もの増税になります。私は、市政の場で、しっかり状況を把握し、反対すべきことは反対し、運用で変えられるところは変えさせていきたいと考えています。

私は最初に当選したとき、一人会派《未来・女性の会》をつくり、できるかぎり、手づくり、手

『あごろ』から生まれた議員さん

ていこさんに初めてお会いしたのは、何年前だったのでしょうか。〈あごろ仙台〉の学習会で、短いけれども鋭い発表をなさった方があり、「あの方とはとてもいい活動をなさっているんですよ」と、三船さんにうかがった記憶があります。

「会社の社則で結婚退職を強いられ、地元の白石市に帰って再就職。仕事を続けながら、出産、育児。『働く主婦と地元では評価されている』というお話に、「なるほど」と納得しました。『生き生きと活動し、決して投げ出さないひと』——そんな印象でした。それだけに、四年前の『あごろ』282号「この日本を女が変える地域から変える」で、「私の中では、議員としてがんばれる心の支えの一つが『あごろ』です。また、『あごろ』に出会えたことで、議員となる決心をしたとも言えます。」という、ていこさんの文章に出会ったとき、とてもうれしく思いました。

305号『ジェンダーバッシング』で、地方の状況を、各地の議員の方がたにおたずねしたとき、真っ先に原稿を送ってくださったのも、ていこさんでした。「男女共同参画課が、二〇〇五年の機構改革で、新設の『子ども家庭課』の下に『男女共同係』に降格された」とあり、驚いて電話したところ、「ずいぶん抗議したのだけれど……」と、地方都市の後進性をいろいろ話してください、そういうなかで議員をなさるご苦労に愕然としました。無所属市民派のていこさんは、その後、社民党にはれこまれて、今回は、社民党としての立候補ですが、同時に「市民派」、そして「あごろ派」。必ず当選して、『男女共同係』を「男女共同参画局」に変えてくださいね。

（あごろ） 斎藤千代

プロフィール

一九五七年 宮城県白石市本町に生まれる

一九六〇年 東北学院大学経済学部卒業

仙台のカルチャーセンターに就職、

二年後、結婚退職制により退職

地元で再就職し、仕事をしながら

出産・育児を経験

二〇〇〇年 白石市議会議員補欠選挙にて初当選

二〇〇三年 白石市議会議員選挙にて二期目当選

現在 総務財政常任委員会委員長

(二〇〇五年六月)

議会広報特別委員会委員

議会運営委員会委員

議会改革等特別委員会副委員長

(二〇〇五年二月)

白石市外二町組合議会議員

家族 夫、娘一人、母



自宅・玄関前でエイエイオー！ いつも笑顔のていこさん

ゆたかな福祉をもとめて三期目に挑戦します

政党にしばらく所属しない無所属 富山県議会・現職二期 谷内 清子



亥年の元旦は、白雪の立山連峰が光り輝く快晴の年明けでした。

我が高岡市は、高速道路や新幹線の整備により力を蓄え、平成二二年には「高岡開町四百年」を迎えます。この重要なエポックに、私は、女性として、また経験を積んだからこそできる政治家として、全力を尽くして地域の発展に寄与したいと固く決意しました。

八年前、〈あごらメイト〉の尾崎憲子さん、志麻愛子さん、山下清子さんはじめ、たくさんの方がたのご支援をいただき、立候補。思いもかけず、当選させていただきました。そして四年前には再選。かつて自分が「政治家に望んでいたこと」を、少しでも実現しようと努力を重ねてきました。

この八年間の喜びと苦しみを糧として、同時に初心を忘れず、地域の発展、ひいては、よりよい日本のために、努力したいと念じております。

私のキャッチフレーズは、

「安心して暮らせるまちを
あなたとともに」

そのため、次のようなことに、とくに重点を
置きます。

安心して暮らせる地域社会を

- ・ 高齢者・障害者・子どもが共生できる施設の活用
- ・ 近所ぐるみで支え合う地域福祉（ケアネット活動）
- ・ 自宅開放による富山型デイサービスの推進
- ・ 〈働く貧困層〉ワーキングプア対策

仕事と家庭の両立社会を

- ・ 事業所内保育の推進・県支援策の充実
- ・ 育児休業の取得・再雇用の促進
- ・ 子育てに配慮した多様な労働時間の推進
- ・ 男性も含めた働き方の見直し

清子の 市民活動



市民活動から得た貴重な
体験を、いろいろなかたち
で県政に反映させています。

とやま福祉
ネットワーク
「まちの福祉
しらべ隊」

障害者、高齢者
への福祉政策の
あり方を調査し、
提言しています。



日本海北前
ロマン回廊構想
実行委員会

「北前船新総曲輪夢
倶楽部」との協働でさ
まざまな事業を行っ
ています。



子どもが健やかに育つ環境づくりを

- ・個性・人権・平和を大切にする教育
- ・不登校・ひきこもり・ニートなどの支援強化
- ・すべての学校に図書館司書の配置
- ・給食残さの資源活用など、環境教育の充実

住民参画による協働のまちづくりを

- ・高岡・富山・金沢を結ぶ観光文化事業の推進
- ・「技」と「伝統産業」を活かしたまちづくり
- ・「北前船」の歴史、文化をつなぐまちづくり
- ・団塊世代のキャリアを活かしたまちづくり

ガラス張りの県政を

- ・税金の使途や政策をわかりやすく情報公開
- ・公費の無駄遣いをなくす（費用弁償など）
- ・政策審議会の公募枠拡大
- ・政策決定の場への女性の積極的登用

ボランティア
グループ
「リンベル」



ミュージックベル、おりんなどの楽器
で訪問演奏をし、おもに福祉施設などで
いろいろな方と出会いふれ合っています。
また、車椅子の方たちに同行し、介助を
しながら活動に参加しています。

十二月定例県議会での谷内県議の代表質問

「ガラス張り県政」を求めて

十二月七日、谷内県議は新県民会議から代表質問に立ち、「ガラス張り県政」を求めて堂々と論戦。自治体行政のあり方、一斉学力テスト、いじめ問題、女性の再雇用支援策、障害者自立支援法の見直し、二上射水神社男神坐像の保全などを取りあげ、前向きな回答を迫りました。

問 各県で起きている不祥事の根本原因と防止策を問う。

答 (石井知事) 倫理意識の欠如が大きな原因。私自身常に身辺を清潔にし、誤解を招かぬよう務めた。

制度面では入札制度の見直しや検討組織の設置などで透明性に取り組む。

問 「ガラス張り県政」実現に、どう取り組むのか。

答 (植出経営管理部長) 知事の、

タウンミーティング(十一回開催)、中小企業との対話(十三回開催)、

「元氣とやま目安箱」などの取り組み、各種会議の傍聴と議事録の公開などのほか、情報公開制度、政策評価制度、外部監査制度の導入により、透明性を高めている。

問 公費支出のチェック体制はどうなっているのか。

答 (塚原出納長) 公金支出は、工事請負、業務委託、物品購入、旅費など、年間三六万件にのぼって

いる。契約などが、法令、予算に違反していないかなど、審査、確認を行なっている。

出先機関では定期的に実地検査を行いチェックしている。

学校選択制は地域の学校を崩壊

問 安倍首相の教育改革という学校選択制は、地域の学校の崩壊につながるのではないか。見解を。

答 (石井知事) 学校選択制にメリ

ットがある一方、問題点も指摘されている。

各市町村が地域の実情を勘案し、住民の意向に耳を傾けて十分検討していくことが大切だ。

問 来年四月実施予定の全国一斉学力テストの結果は、いっさい公表しないよう文科省に申し入れるべきと考えるがどうか。

答 (東野教育長) テスト結果の取り扱いは、市町村や学校の判断にゆだねられているが、市町村教育委員会は、配慮事項を十分ふまえ、適切に対応することが大切だ。

問 県内で起こった一八年前の「いじめ自殺事件」を、どのように総括しているのか。

答 (東野教育長) 判決を厳粛に受けとめている。

今回十一月二九日付けの「いじめに悩む子どもたちへ」で緊急的によびかけたところである。

家庭、地域の連帯協力を得て最大限努力したい。

問 教師の自主性を尊重し、「研究指定校」や「学校課題研究」などを削減してはどうか。

答 (東野教育長) 指摘のように、教員の過度な負担にならないよう配慮することが大切である。研修の見直しも含め教員の負担軽減に努めたい。

女性再雇用支援策を富山県の目玉に

問 女性再雇用支援策を本県の目玉にすべきだ。

答 (石井知事) 少子化対策とし

ても大事だ。仕事と子育て両立支援推進員の増員による企業主訪問や、積極的に取り組む企業の表彰などを推進しているが、さらに積極的推進企業の税の優遇措置を、国に働きかけてゆきたい。

問 今年富山県で開かれた男女共同参画フォーラムのように、女性団体の要望で高岡会場も実現した。市民と行政の協働が大切と考えるが。

答 (岩本生活環境文化部長) 一日目の夜、高岡の女性団体と高岡市が中心となり開催した交流会は、県内外から多数の参加を得て成功裡に終わった。今後とも県民と行政の協働に力を入れたい。

問 女性管理職登用アップに向け、どう取り組むのか。

答 (植出経営管理部長) 現在、登用率は五・五％(全国九位)だが、課長補佐級・係長級の女性職員をかなり登用しているので、数年後には活躍が期待できる。

障害者自立支援法見直し 国に要望を

問 国に対し、障害者自立支援法の見直しを要望すべき。

答 (石井知事) 中部県知事会でも負担軽減の緊急提言をしており、見直しを働きかけてゆきたい。

問 施設の減収分を市町村と連携して補助できないか。

答 (鎌仲厚生部長) 県内施設では平均三％の減収の報告がある。一〇月から緩和措置が講じられるよ

うになったが、今後、事業者の報酬激変緩和措置など必要な見直しを要望していきたい。

問 高岡市二上射水神社の神体である木造男神坐像(重要文化財)の保全を。

答 (東野教育長) 防湿対策が十分と聞いている。高岡市と十分協議しながら、保存方法や支援について検討したい。

再質問

子育て後の再雇用制の充実を

問 出産を機に七割の女性が退職しているのが現実だ。子育てが一段落した後の職場復帰が、収入や年金に不利にならないような再雇用制度ができないものか。

答 (石井知事) 再雇用時の給与、年金に差をつけたいとなると、制度論として難しいのではないか。育児休業制度をうまく活用することをもっと積極的に行えないものか。取り組みやすい環境づくりに努めたい。

問 教師の仕事は普通のサラリーマンとは違う。夏休みの多忙化の解消などリフレッシュできるようにすべきだ。

答 (東野教育長) 夏休みの研修など極力減らし、本人が希望する研修や効果のある活用を目下検討している。

福利厚生面での取り組みも重要だ。一方で授業時間の確保から夏休みの短縮という動きもでており、総合的に検討しなければならない。

たにうち清子さんって　こんな人

谷内さんは、理想をもちつつ現場で汗を流す人。

彼女のにつこり笑顔は　いつのまにか仲間をまきこみ
新しい実りを生み出しています。

市民派女性議員、谷内さんを、今度もゼヒ！

富山県高岡市議会議員　尾崎のり子

谷内清子さんは、一九九九年に県議選に初挑戦。富山県では三二年ぶりという女性の県議が誕生しました。

以来、県議二期八年、しっかり働かれ、この春の統一地方選挙で三たび挑戦されることとなりました。最初にお立ちになった時に「市議選も一緒に」ということで私も立ち、ペアで当選しましたが、二年前、私は合併があり、前倒しで三期目の市議選をクリアしました。今回は谷内清子さんをしっかり応援して、「市民派の女性県議席」を守ろうと頑張っています。大変ですが、しなやかに、したたかに、ゆきましよう。市町村合併で、全国的に女性議員の数が激減している現状です。中でも市民派は苦しいたたかいを強いられています。

全国の皆様、富山県も頑張っております。多くの女性議員の試練を仲間たちと一緒に乗り越えて、ネットワークしてゆきましよう！

この四月の選挙、へあごらメイトが全員当選して、行政のチェックをしつかりしてゆきましようー

しなやかにしたたかに信念を貫く谷内清子さん

富山市議会議員 志麻 愛子

八年前の統一地方選で、谷内清子さんは富山県会議員に、私は富山市議会議員に立候補し、当選。四年前の選挙も、共に再選を果たすことができました。私のほうは、二年前、七市町村合併による解散選挙で、定数削減の厳しい選挙だったものの、なんとか議席を得ることができました。同時選挙でなかったので、谷内さんは自分のことのように毎日応援に駆けつけてくれました。今度は私が応援する番です。「無所属・市民派の議席を守らねば！」それが、谷内さんと私に共通する使命感です。

私たちは、地方自治体の政治は、住民自治が基本であり、常に市民と同じ視点でありたいと、政党には属していません。私は富山市議会で無所属・市民派の一人会派ですが、谷内さんは県議会でも無所属・市民派の信念をしつかりと貫きながら、他の無所属議員や民主党議員とで同じ会派を組んでいます。採決の賛否などは会派に縛られることなく、代表質問権はしつかりと確保するという、谷内さんならではのウルトラC。谷内さんのしなやかでしたたかな政治手腕に脱帽です。

議員の仕事は、行政のチェックと政策の提言です。谷内さんの八年間を振り返れば、いかに立派に

議員の役割を果たしてこられたかがわかります。市議会だけでは解決できない問題も、谷内さんに県議会ですっきりと取り組んでもらいました。富山県の女性たちやNGOやNPO活動をしている市民たちにとって、大切なかけがいのない県会議員です。

見掛けも精神も心も若々しく、いつもにこやか。それでいてどんな圧力にも負けない強靱さを併せ持った素敵な女性。谷内清子さんの三期目当選に向けて、私も頑張ります。

DV被害者の支援のため、女性みんなのために！

登石 知子

同じ富山県内ですが、住んでいる地域の関係で私は谷内さんに投票権がないので、とても残念です。投票権はありませんが、女性たちのネットワークでつながっています。私が所属している、富山県民間唯一のDVサポートグループでは、数少ない女性議員でもある谷内さんに、県や県民に伝えたいことや施策に生かしてもらいたいことを伝えています。

多くのDV被害に遭っている女性たちは、たとえ加害の場から逃れることができて、自立するためには並大抵ではない苦勞があります。谷内さんには県議会議員として「DV被害者の保護と自立支援」、そのためのソフトとハードの充実に力になっていただきたいです。ぜひとも勝利を！

（グループ女網／ストップDVとやま）

たにうち清子さんを 三たび県政に！

現在

富山県議会議員二期目

教育警務常任委員会委員

少子化対策特別委員会委員

新・県民会議総務部長

二上地区各種団体連絡協議会顧問

まんしょう会顧問

二上地区社会福祉協議会顧問

志貴野中学校教育振興会相談役

万葉小学校教育振興会顧問

二上地区体育振興会参与

ボランティアグループ「リンベル」会長



略歴

1934年 富岡市末広町で生まれる

1953年 富山県立高岡高等学校卒業

1957年 お茶の水女子大学卒業、東京都などで教職に

1982年 富山県に帰郷

富山県消費生活センター相談員

NHK富山支局主婦リポーター

富山県男女共同参画推進員高岡連絡会会長

富岡女性の会連絡会会長

高岡市ボランティア連絡協議会会長

とやま福祉ネットワーク「まちの福祉しらべ隊」事務局長

ボランティアグループ「ばくの会」会長 など

支えあい ともに歩みます

石川県議会議員 広岡 たつみ



八年前、私は「あたたかですがすがしい政治」をキャッチフレーズに当選。「一人ひとりが自分らしく生きられる社会」を目標として、「男女共同参画」を守り、「お年寄りのくらしと生きがいを支えるきめ細かな仕組み」をつくり、「障がいを持つ人の自立を支援し、いきいきと生きられるような社会」をめざして、緊急雇用創出特別基金で雇用創出をすすめる一方、石川県の「ものづくり文化」を大切に、「みんなで支え合うくらし」を少しずつ実現できたと思います。

三期目をめざす今回は、「安心と希望」をキャッチフレーズに、三つの柱を立ててみました。

1 格差社会、このままでいいですか？

まじめに働く人がむくわれ、若者が将来に希望を持てる社会をつくります。
雇用の安定と地域の活性化をめざします。

2 子どもたちが育つ環境はだいじょうぶですか？

子どもがのびやかに育つ社会をつくります。

子どもの「育ち」を地域ぐるみで見守り、いじめ根絶をめざします。

「食」をつうじ、体と こころの根っこをつくります。

3 のびのびと、あなたらしく生きていますか？

お年寄りや障害のある人も、誰もが互いに能力を活かしあい、

いきいきと暮らせる社会をめざします。

児童虐待、DV、高齢者虐待などが生じない しくみをつくります。

政治は「くらし」そのもの。みんなでいっしょに支えあう、一人ひとりがその人らしく力を発揮することができ、そんな社会をつくりたい。——それが、「あたたかですがすがしい社会」実現の道だと信じています。

金沢で生まれ育った私は、古くからの「伝統と文化」を誇りにしている石川県が大好きです。

その大好きな石川県が、ますます大好きになるように、みなさんといっしょに行動し続けたいと思っています。

「これまでのわたし、そしてこれから」

五人の子どもの子育てに迫いかけられていた私は、三八歳で仕事を始めました。

市民活動のバックアップや、提言雑誌の創刊など、ひとつひとつ小さなステップを重ね、八年前に県議会議員として活動の場を得たのです。

それからは、支援者の方がたのあたたかい励ましを受けながら、子育て、雇用、まちづくり、障がい者福祉、介護、環境、食教育など、県政に対し積極的にさまざまな提案を続けています。男女共同参画推進、次世代育成支援、障がい者自立支援、DV（ドメスティックバイオレンス）の社会啓発なども、具体的に取り組んでいます。

これまで「やってみれば道は開ける」の信念で実践してきました。

やがて見えてきたのは

「人が無理にあわせなければいけない社会のしくみがおかしい。人が中心のしくみを作っていくのが政治の仕事」

ということ。

政治は、あなたや私の「くらし」そのものです。

いっしょに考え、変えていきましょう。

私がとくに力を入れているのは、

次世代育成と 子育て子育てです。

石川県では子ども総合条例の策定準備が進んでいます。私も大人の都合が優先されないよう、次世代育成支援特別委員会でも意見を述べ続けています。

子どもたちが育ちあう場はどこ？

総合養護学校が開校されました。ゆくゆくは加賀地域にもつくりたいという県の意向です。

私は賛成しかねます。立派な養護学校ができる度に、障がいのある子が「普通の学校に通いたい」という希望を出しづらくなります。健常な子と障がいのある子が、別々に育つのと、まちの学校で一緒に育つのでは違いがあると思います。一緒に育つことは、障がいのある子にとって、いろいろな体験できること以上に、健常な子にとっても大きな経験の場になるのです。

先日「知事と少子化を考える県民のつどい」を聴きにいきました。子ども総合条例の策定委員が、有識者ばかりだったので、子どもたちや子育て中の若い人も委員に入れるよう発言したのを受けて、小学生から大学生まで、障がいのある子や、子育て中の人も発言者になり、障がいのある高校生が、「地域とのかかわりを通して相互理解を深めたい」と発言したとき、知事の答えは「地域の人たちが学校を訪れて行事に参加することで交流する」でした。子どもを中心に考えると、「何が大切か」が見えてくるはずです。相互理解には、単発の行事より、日常のかかわりこそが重要だと思っています。

子どもの病氣と子育てをする人

仕事を持ちながら子育てをする若い親にとって、子どもが小さい間は、風邪を引いたり、けがをしたり、急に休まなければならないなど、困ることがしばしば起きます。

それなのに、これまで、働く場では、子どもが病氣になったときを想定したしくみはありませんでした。母親が仕事を休んで世話をするのが多く、休まない母親に、「子どもと仕事とどっちが大事なのか？」と責められ、急に休むと「だから女には大事な仕事を任せることができないんだ」と言われてきました。子どもが病氣になることは想定内です。ですから病児保育を進めるべきでしょう。

近頃、やっと、その方向で進んできましたが、議員になってすぐのころ、病児保育の必要性を言うと、子どもが病氣なのに休まないとは「鬼のような母親だ」と言われました。理想を言えば、家族が病氣になったとき、いつでも、だれでも休みを取ることができ、そのことが仕事上デメリットにならない社会になることだと思います。

しかし、現状ではとても無理です。今の日本の働き方では、病氣の子どもを安心して預かってもらうことのできる場所の確保こそが、子どもを育てる大人の成すべきことです。そうならないと、子どもを産もうという気持ちにはなかなかないと思います。

子どもにとっても、親と職場の都合で、熱があるのに隠して保育園へ連れて行かれて、病氣がひどくなって苦しむより、病児保育に預けられたほうがいいのです。「いつでも預けることのできる安心感があると、親も無理をしないので、病氣になっても軽く済む」という小児科の先生の報告もあります。

たつみの議会報告生ロダイジエスト

（二〇〇六年九月予算特別委員会）

〔地方自治と財政〕

広岡 夕張市が六〇〇億円の負債を抱えて破綻したとの報道があった。今年度から、これまで許可制だった地方債の発行が協議制になり、九月からは金利設定も自治体に任されるようになった。このことは、自治体の資金調達力に格差が生じるだろうと心配されているが、地方分権の流れの中で、自治体の自主性を高めることにもつながると思う。

石川県の今年度の県債の発行高は七〇〇億円を超え、一八年度末の残高見込みは、臨時財政対策費

を含め一兆円を超えると聞いているが。

総務部長 本県は県債残高の標準財政規模に占める割合が高い方から六番目、県債残高の抑制は急務。投資的経費の適正化を伴う県債発行の縮減を行い、適正に対応したい。

広岡 県債は借金。財政の健全性をしっかりと進めて欲しい。地方債発行の自由化は、本県にどのような影響があるとお考えか。

総務部長 地方債は許可制から協議制へ移行したが、総務大臣が同意したものは、従来と同じように国による保障がある。また、起債の許可団体への移行の措置、あるいは起債制限措置がある。いわゆる

る暗黙の政府保障は現時点でも継続しており、債務不履行は生じない仕組みになっている。当面、資金調達に支障が出ることはないと思う。一方、金融市場における自治体の財政への関心が高まっており、健全性の維持が重要な課題と考えている。

県は「破綻しない」を前提に、ともかく「今かわっている人たちがいる間、もちこたえればよい」と借金を重ねつつ県財政を運営していく姿勢。「それはおかしいでしょう」「子どもたちに背負わせるのですか」といいたいのです。

〔高齢者福祉〕

広岡 特別養護老人ホームは、二〇一二年度までに介護型療養病床

群が廃止される。特養は高齢者にとつてますます重要な生活の場となるが、食事、入浴、排泄についての満足度が高くなければならない。春の介護保険の改定による人員削減で食事や入浴時間に余裕がなく、人としての扱いが受けられない実情もあると聞く。細かな実態調査をしてほしい。

健康福祉部長 本年四月から介護保険施設などを対象に開始した「福祉サービス第三者評価事業」を県のホームページで公開している。利用者がニーズに適した事業者を、外部からの客観的な評価を通じて選択できるようになることは、非常に大切なことと考えており、情報提供の仕組みを積極的に推進していきたい。

広岡 この四月に「高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律」が施行された。具体的な施策はなされたのか。

健康福祉部長 虐待防止啓発のためのパンフレットの配布、介護サービス事業者や市町職員に対する研修会を随時開催してきている。

また、市町関係者や関係団体からなる虐待防止ネットワークも、現在一〇の市や町で整備されており、さらに、県による処遇困難事例検討会を設けて、市長への支援を開始している。

広岡 ソフトも大事だが、ハードの面からもサポートできるのでないか。ベッドの横に水洗トイレを設置している施設があり、転倒事故抑止やスタッフの介護援助の

軽減に大きく役立っている例がある。

また、県庁舎内の副流煙対策も再度聞きたい。喫煙コーナーに浄器が置いてある程度では、臭いもひどく、副流煙による受動喫煙も避けられない。庁舎内には空気清浄器が十二基あり、そのリース代が年間四〇〇万円かかっている。二〇〇七年十二月にリース契約が切れるが、知事の決断でその前に県庁舎内を全面禁煙にしたい。

知事 「受動喫煙の被害」は、あつてはならない。分煙を一歩進めて、完全分煙を徹底していく必要があると思う。その手だてはしっかりと講じていかなければならないと考えている。

〈十二月六日定例会一般質問〉

〔子どもの自殺防止に提案〕

広岡 いじめが原因とされる自殺が立て続けに起きている。子どもは、友だちに見られながら、遊び、大きくなる。異年齢のつながりをつくり、若い人たちが経験を分かち合う場を設ける施策を提案したい。教育長 多くの学校で、卒業生から進路の体験談を聞く会がある。そうした場で、いじめ問題や、人としての生き方、問題解決の仕方なども学ぶ機会にしたい。

〔児童虐待への対策は？〕

広岡 親が子どもを殺害する深刻な児童虐待が起きている。何よりも最優先しなければならないのは、

子どもが健やかに育つことであり、子どもの人権を守ることである。子育て中の親が地域社会から孤立しないようなサポートも必要と思うが、その取り組みは。

健康福祉部長 児童虐待に取り組む関係機関との連携を強化するために、年度内には関係機関や学識経験者からなる県レベルの対策協議会を設置したい。市、町における要保護児童対策地域協議会の後方支援の充実、関係機関の連携や支援体制のあり方などについて、さらに検討を加え、未然防止や早期発見に万全を期したい。

〔バリアフリー対応に心遣いを〕

広岡 県庁舎の展望ロビーは親子連れ、高齢者、車椅子利用の方な

ど、幅広い層の来訪者があり、有効に活用されているスペースだという印象で、評価すべきと思う。ただ、人に優しい県庁舎を標榜するなら、障がいのある方が使われる多目的トイレだけでも、手を乾かす乾燥装置の設置を。

また、障害者用駐車スペースは、必要な人がいつでも使えるよう（パークイングパーミット制度）に、機能しているのか。

総務部長 県庁舎のパブリックゾーンの多目的トイレにはハンドドライヤーの設置を検討したい。駐車場は適正な利用が図れるように、マナーやモラルの向上に広く県民の理解を得る必要がある。他県の取り組みも参考に、よく研究していきたい。

「もう一步踏み込んだ」

育児休暇制度を期待する

広岡 育児休暇をとるネックは、休暇中の経済的不安が大きいことである。

これまで、雇用保険では四割の保障しかなかったが、二〇〇七年

度からの新制度では企業負担分の

半額を助成するようだ。策定中の「子

ども総合条例」に実効性のある施

策を盛り込むべきでは。

知事 育児休暇取得が困難な理由

としては、職場に迷惑がかかる、

業務が多忙、家計が苦しくなるな

どが上位を占める調査結果がある。

「子ども総合条例」に、全国的に

先駆け、一般事業主の行動計画策

定義務を法律以上に拡大、優良企

業には知事表彰制度を盛り込むな

ど、育児休業がさらに進むように

企業の理解を求めていきたい。

議員は「パイプ役」から「チェック役」へ

三月五日（月）の朝日新聞朝刊に、「財政に強い議員をめざせ」という記事が掲載されていました。夕張市の破たん全国的な注目が集まる中で、議員は一体何をしていたのかという声があがっています。地方自治体の会計処理は複雑で、公社や第三セクターなどの隠れ借金を含めた全体像は、なかなか見えてこないのが現状ですが、地域の将来像を考えると財政問題は避けては通れません。正直言うと私もあまり得意分野ではないのですが、議員としては、しっかりチェックをしていきたいと思っています。

昨年七月、総務省が発表した「実質公債費比率（一八%以上の場合、地方債の発行が許可制となる）」を見ると、石川県は一二・〇%と比較的よい数値ではありますが、県下市町の五割が一八・〇%を上回り、地域全体の財政状況という点からは課題を抱えていることがわかります。みなさんぜひ興味を持って、石川の将来について一緒に考えてみてください。傍聴をお待ちします。

家族とも 地域の仲間とも 支えあい ともに歩む 広岡たつみの プロフィール

- 一九五二年 金沢市笠市町で生まれる
- 一九六四年 金沢市立瓢箪町小学校卒業
- 一九六七年 金沢大学教育学部付属中学校卒業
- 一九七〇年 石川県立泉丘高等学校卒業
- 一九七三年 結婚のため、富山大学教育学部中退
- 一九八四年 五人目の子どもを出産
- 一九九〇年 編集の仕事を始め、ルポタージュの執筆などを手がける
- 一九九六年 雑誌「家族とくらし」創刊
- 一九九九年 石川県議会議員選挙初当選
- 二〇〇三年 石川県議会議員選挙2期目当選

著書：『女なら二足のわらじ』（有信堂）
『よくわかる自治体の男女共同参画政策』
（広岡守穂との共著／学陽書房）など。



5人のこどもと夫（広岡守穂：中央大学教授）の支えで始まった議員活動。今では3人の子どもの配偶者と4人の孫が加わって、数も力も倍増しました。ともに子育てに大奮闘した夫は、同志のような存在です。現在は、2人で、子育てや男女共同参画社会に関する講演・著作活動も行なっています。

たつみさんって、おもしろい方ですね

プロフィールを拝見して「オヤッ」と思いました。大学中退で結婚。その十二年後に五人目を出産。六年後、三八歳で自分の仕事を開始……。そして今は、おつれあいと共著を出したり、講演なども何だかおもしろそう、とお電話。飛び込みのインタビューに、ご本人が、気軽に答えてくださいました。

「学生結婚をなさったとか。」

「ええ、そうです。相手は、中学の同級生。結婚してから、夫の生活の場、東京で生活を始めて、それから次つぎに五人の子どもを。」

「大変だったでしょう。」

「大変でしたね。何とか続けられたのは、夫の協力があつたからです。ほんとうによく助けてくれました。そのうち、金沢に住む夫の母の介護のために、小・中学生の下の子三人を連れて金沢に戻りました。夫は、上二人と東京で親子三人。大学の助手から助教授に。現代文化論などの本も出して、テレビにも出るように。夫は、金沢の大学でも講師をしていたので、毎週一度は金沢という生活でした。」

「ご苦労なさいましたね。」

「大変でした。私はくらしに追われながら「何か」を探し求めていますでしたが、ラジオの英語講座も大学の聴講も続かない。つまらないことで子どもを叱ったり、過労で一か月半入院したり……（二人の危機）の時期もありました。でも離れ住んで、支え合う意識が強くなりましたね。そして、おしゃれにもなりました。一緒の時は、「きれいな私」を見てほしかったので。反面、夫が不在の時間が多

いおかげで、たくましくもなりました。介護やボランティアなどを地域の人と話し合うなかで人脈が広がり、外で積極的に発言するようになって……。やがて、『このままでは、自分が干からびてしまう』という気持ちに。それが、ミニコミづくりに向かった動機の一つだったのでは、と思います。

『家族とくらし』は、女たちの投稿誌。自分自身のこと、自分の周辺のことなどを書いて編集しました。部数は三〇〇部ほど。黒字にはなりませんでしたが、赤字も出ませんでした。良かったのは、書いたリ、ルボをしたりしているうち、ネットワークが広がり、生活の底にある〈社会〉に、だんだん目が向くようになったことですね。」

「それが、県議になられた理由ですか？」

「石川県は日本でも最も保守的な県です。女性の県議はずっと、北陸鉄道をバックにした社民党の方一人でしたが、今は共産党の方と三人になりました。〈色のついてない人を出したい〉ということで、私にお話があったのです。」

「ご自分の行動は、ご自身が決める。いつも主体的に判断し、決断なさっていらつしやるのですね。」

「世間では〈おしどり夫婦〉と言われていますが、危機が全くなかったわけではありません。山も波も越えて、ようやく、それぞれがほんとうの自由と自足を獲得したのかもしれない。知人のノンフィクション作家は、『卒婚ですな』というんですよ。」

お連れ合いの広岡守穂さんは、現在、中央大学の教授。生活空間の不一致は、今も続いているが、『よくわかる男女共同参画政策』など、二人三脚の共著も生まれている。「互いに支え合いながら、議員という仕事を、今は楽しいと感じている」という、たつみさん。選挙が終わったなら、〈自分史〉を、『あごろ』にぜひ連載してくださいね。

(あごろ)斎藤千代)

「住む人のための町づくり」を願って 五たびチャレンジします

新宿区区議会議員 民主党公認 小野 きみ子

私が初めて立候補を決意したのは、一九八〇年代の中曽根民活最盛期。

都庁が移って来る新宿区の地価上昇は激しく、相続税の重さに耐えかねて区外に転出する人が続出しました。

そのさなかに父が死に、借地に建つ我が家にさえ高額の相続税がかかって驚き、「狂乱地価に歯止めを！普通の人が住み続けられる新宿をー 区民のための土地、住宅基本条例をつくらうー」と訴えて立候補しました。しかし次点で落選。

それにめげずに同じ趣旨の訴えを続けていたら、次回は当選。以来今日で十六年間、時代が次つぎと生み出す土地・都市・建築・住宅問題に取り組んできました。

特に昨年の耐震偽装発覚後は、五十嵐敬喜弁護士らと「耐震偽装から日本を立て直す会」を結成し、国会に働きかけましたが、不完全燃焼に終わって残念でなりません。

今回の大規模オフィス、高層マンションにはじまった不動産バブルは怖い。十五年前と異なり不動産ファンドの形で「住む」「使う」より、投資目的の再開発が合法化されました。

これが健全なまちづくりでしょうか？

私はこれからも「住む人のためのまちづくり」を目指して全力を尽くします

「愛国心とは」

去る二月二三日、新宿区議会第一回定例会における民主党の代表質問で、私は冒頭に次のような提案をしました。

「愛国心」って、どんな心。

「美しい国」って、どんな国。

親が子殺し、子が親殺し、きょうだい、夫婦が殺し合い、弱者をいじめ、痛めつけ、年間三万人も自殺者が出る経済大国。これが「美しい国」ですか。

愛国心を強いるリーダーは、リーダーにふさわしい人ですか。

私が思う「美しい国」は、住む人が皆「恥」を知る国のことです。

職権濫用恥ずかしい。権力迎合恥ずかしい。弱い者いじめは恥ずかしい。ごまかし、だましは恥ずかしい。えこひいきは恥ずかしい。公私混同恥ずかしい、等々。「恥」という価値観を、日本に甦らせたいと私は思います。せめて、政治に携わる人だけでも「恥」の価値観を共有してほしいものです。

政府の押しつける「愛国心」「美しい国」と、国民の考えるそれとの差は、日に日に拡がっていきます。ところで昨年六月、私は「愛国心」だけにしほって、本会議で質問しましたので、お目通し頂けたら幸いです。併せて中山弘子区長の答弁もお読みください。（東京都唯一の女性区長中山区長も「あらメイト」です）

小野（前略）問題の「愛国心」についてですが、「民主党の改正案の中にも「愛国心」と書いてあるのに、政府案だけを批判するのはおかしい」と言われそうです。そこで若干時間をかけて説明させていただきます。

政府案では「愛国心」について、教育の目標、第二条第五項で、こう言っています。「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と。

民主党案は「愛国心」について、前文の部分で、こう言っています。「（前略）日本を愛する心を涵養し、祖先を敬い、子孫に想いをいたし、伝統、文化、芸術を尊び、学術の振興に努め、他国や他文化を理解し、新たな文明の創造を希求することである」と。

どこが違うか。

ここからは、私は、民主党としてではなく、戦争を体験した一人の人間として話をさせていただきます。

私にとって両者の違いのキーワードは「態度」という言葉です。私は、第二次世界大戦の最中、ヨーロッパにいました。初めは新聞社の特派員だった父の赴任先、イタリアのローマにいましたが、連合軍が（イタリア戦線ではアメリカ軍ですが）イタリア半島の南端から攻め登ってきたため、北へ北へと移動して行きました。

その間、ムッソリーニは国王によって捕らえられて、岩山の頂上に幽閉され、イタリアは降伏するのですが、間髪を入れずドイツ軍が乗り出して、イタリアは南北に分断されます。

そして、幽閉されていたムッソリーニもドイツ軍に救い出されて、北イタリアのガルダ湖畔に、ド

イツの傀儡政権の大本営を設置します。以後イタリアは内戦状態になってしまいました。

私の家族は日独伊三国同盟の日本国民ですから、当然連合軍から逃れて北へ北へと逃げますが、当のイタリア国民は国民同士戦わねばなりません。

北側のイタリア人は、もう一刻も早く戦争を止めたくてたまらない。脱走兵が相次ぎ、その中からバルチザンになる人も多数いました。

日本人の自動車は、バルチザンに攻撃され、私の父も、家族のいる南チロールのメラノと、ガルダ湖を往復する道中、たびたび襲撃されました。日本人の海軍武官や商社の方が襲撃され、亡くなれました。

こんな事から、幼い私は、バルチザンは裏切り者の悪党と思い込んでいました。

しかし、大学生になり、ヨーロッパ戦争の記録などを読んで考え込みました。「どっちが愛国者か」と。「愛国心」という心情は、個々人で違うものです。置かれた立場によっても違うものです。これを画一評価することがいかにナンセンスか、賢明な教育委員会は、百もご承知の事と思います。

さて、話をキーワードの「態度」に戻します。北のイタリア軍は、脱走兵の穴を埋めるため、新規に徴兵を強化。徴兵される青年の家族が泣き叫んで抵抗しているのを私は見ました。

子供心に私は、「泣く以外抵抗の方法を持たない女は、何と悲しい存在か」と痛切に思ったものです。

ところが戦後、日本に帰って来て、私は、日本では「泣くことも許されなかった」ことを知りました。

私の友人の話ですが、大学生だった兄のところへ、在郷軍人会の人と国防婦人会の会長が「おめでと



新宿区長・中山弘子さん(右)と

うございます」と言って赤紙を届けに来て、家族は涙を見せずに「有難うございます」と言って、受け取ったそうです。

国防婦人会の会長は、家族が「愛国の母」「軍国の祖母」としての態度で受け取ったかどうか、まるで入社試験の試験官のように見つめていたそうです。

召集令状を届けに来た二人が、玄関を出て、足音が遠ざかるのを確かめると、母と祖母は土蔵に駆け込んで声を上げて泣いたそうです。幼かった私の友人は、土蔵の扉の外で見張りをさせられたそうで、当時は使用人にさえも、涙を見せられない雰囲気だったのかもしれませんが。

泣くだけが抵抗手段だったファッショの国イタリアよりも、泣くことも出来ず愛国的態度を強制される日本のほうが、もっと罪深い国と、私は思います。

区長は、「愛国的態度」とは、どういうものだとお考えでしょうか。

区長 「愛国的態度」についてのおたずねですが、国を愛するとは、自らを育んでくれた郷土や伝統や文化を愛することであり、そして国民を愛することによって成り立つものだと思います。

そしてその感情は、それぞれの人の自然な気持ちの発露として生まれるものと考えます。ですから、それは、ご指摘のように「愛国的態度」として強制されることは、あってはならないものと思います。

「教育改革について」

新宿区議会議員 小野きみ子さん

聞き手 東京女学館大学教授(社会学) 麦倉 哲さん

麦倉 教育基本法が、与党による強行採決で改正されました。

憲法と一体となった重要な法律を改正するには、もっと国民的な議論が必要ではなかったかと思うのですが、いかがでしょうか？

小野 当然です。直接教育に関わる新宿区の、具体的な取り組み抜きに、話はできません。今後は、新宿区議会も、このあり方について、十分に議論していかなければいけませんね。

麦倉 愛国心の押しつけということが問題になりましたが、愛国心というのは、国民一人ひとりが抱くものだと思いますが？

小野 そのとおりですね。国を愛するとは何か、というのを、国民一人ひとりに、どのように考えてもら

うかが重要です。国家への忠誠を誓わせるような「愛国心の強制」は、やめてほしいですね。

「愛国」を押し付けるまえに、国や行政は、「国民一人ひとりを愛する政策」を掲げて、それを実現すべきだと思います。

麦倉 いじめ自殺問題もありましたが、政府の統計は、いじめ自殺をほとんどカウントしていない。いじめ問題の深刻化をそのままにして、教育基本法を改正してしまったようですが、その点については？

小野 そこで私は、「いじめのない新宿を」というスローガンを掲げ、教育、福祉、職場、地域など、すべての場において、どんな人も虐げられることのない新宿区にしたいと考えています。

「相談機関の充実」「第三者によるいじめ問題の把握」「学校サポーターの充実」「多様な居場所づくり」など、いじめ問題について、新宿区議会を通じて具体的な提案をすることで、教育の現場を改善していこうというわけです。

そのために今度も区議選に立ちます。

素早く辛抱強い小野さん

民主党代表代行 菅 直人

小野きみ子さんと私は、社民連、新党さきがけ、民主党と、同じ道を歩いた仲間です。小野さんは、行動に踏み切るときの素早さと、結果が出るまでの辛抱強さを併せ持つ「信頼できる人」です。

仕事と育児の両立を支援している 小野さんを推せんします

参議院議員 蓮 舫

仕事をあきらめるか、子どもをあきらめるか、という判断を女性にしてみらうのは終わりにしたいと思います。

この新宿で、子どもを安心して生み育てられる環境や制度をつくり、働き方と育児の両立支援を強力に推し進める小野きみ子さんを、自信と責任を持って推薦いたします。

巨きな迫力と繊細な神経の持ち主

小野さんにお目にかかったのは、二十年前くらいでしょうか。「時局」の話から共通項が生まれたように記憶しています。見るからに「肝っ玉母さん」という印象でしたが、視野の広さと頭の回転の早さに驚きました。

その後、文章を拝見して、その迫力と繊細さに感嘆しました。

お父さまが毎日新聞の記者で、海外特派員。小野さんも幼い日を海外でお過ごしになったとのこと。視野の広さを納得できました。

今回の選挙用チラシで、「オール読売新人賞」や「毎日児童小説賞」を三十年以上も前に受賞していらつしやることを初めて知り、「名文」に感心したのも、なるほど……と思いつた次第です。

区議会は残念ながら傍聴したことはありませんが、巨きな小野さんが大きな声で、しかも名文句でフントーしていらつしやるお姿は、32ページに掲載した「愛国心」をめぐるスピーチからも、うかがえます。

「二期でやめる」というお話が、五期目に……とは驚きますが、周囲が熱望した結果でしょう。同時に、小野さんご自身も、このお仕事をなさっているうちに、だんだんのめりこみ、ほれこんでしまわれたのではないかと、私は推測しています。「血の気の多い小野さん」に、区議はピッタリのお仕事ではないでしょうか。

今度も、これから、おめず、憶せず、頑張ってください。

（あこら）斎藤千代

いっしょに生きたいネッ！ ひとりひとりを大切に

東京 中野区 無所属 市民派 佐藤 ひろこ

「地域で生きたい」という、障がいのある方たちと出会ったことが、私の活動の原点になりました。生協、保育園、小学校のPTAと、地域の活動を続けるうち、区議会と地域の結びつきの重要さに気がつき、一九九一年、東京・中野区の区議に無所属で初当選。以来、四期一六年間、どん底だった区政の立て直しと、新たな福祉サービスの充実に、必死で取り組んできました。

大阪生まれの私が、東京の女子大に進学したばかりに東京に住み続けること三七年、そのうち一六年も区議をしてきたとは、我ながらふしぎな気がします。例えば女子大時代、障がいのある方の介助スタッフをしたことが、私のその後の人生を決めたような気がします。

そんな私が、一六年間の区議生活の中で実行したのは、次のようなことです。

だれもが地域で暮らし続けられるまちづくり

二四時間三六五日の相談窓口支援を要求

障がい者の地域自立生活支援センター「つむぎ」を開設、障がい者の地域生活支援の原則無料化を実現。

四つの地域保健福祉センターを存続させ、権利擁護センターをつくり、福祉サービスの情報を提供。来年は、民間の業者に勧告できる福祉オンブズ制度が実現します。

介護サービスの充実

「困難なケースに対応するヘルパー養成講座」を実現

「時間を制限せず、必要なサービスを」は、一部実現。

「江古田の森にグループホームやケアハウスを」も、一部実現。

「二四時間三六五日、在宅を支える介護サービス」「地域の人材を生かした認知症ケア」は、実現に向けて努力を続けています。

障がい者の地域生活支援

実現できたのは、

◆重度の人が利用できる通所施設の増設。◆要約筆記者派遣の事業化。◆通所施設の会費負担の軽減。◆保健福祉審議会や障害福祉計画策定への障がい当事者の参加。

一部実現できたのは、

◆通所・通学・通勤など、移動支援の充実。◆障がいのある中・高生の学童クラブの支援です。

そのほか、要求し続けているのは、

◆障がい者のケアマネージメントができる相談支援。◆小規模作業所などを身近な相談拠点に。

◆自立支援医療費の負担軽減。◆地域生活支援事業の充実。◆中野区の外郭団体での障がい者法定雇用率の達成。◆障害者手帳などの取得手続きの迅速化です。

格差をなくす自立支援

・ホームレスの自立支援のための健康相談、仕事、住居の支援を実現。

・就職相談など、若者の求職活動の支援を一部実現。

・「生活保護者の自立支援に連携体制を」と、「生活支援センターの拡大」は、提案を続けています。

災害弱者の避難対策

・「福祉避難所の増強」と「災害ボランティア募集」を一部実現。

・「災害弱者への情報伝達と安否確認体制の確立」「被災要援護者支援センターの設置」は、要求を続けます。

駅や道路をバリアフリーに

・「交通バリアフリー整備構想」の策定を実現。

・「段差解消や点字ブロック設置」「スマイル中野裏の放置自転車撤去」「障がい当事者も参加したバリアフリー協議会の設置」「個別性に対応した移送サービス」は、実現に向けて努力中です。

多様な家族の子育てをしっかりと支援

・緊急一時・産休明け・延長保育など多様な保育の拡大を（実現）／・保育園の待機児ゼロに／・保育園・幼稚園に障がいのある子どもへの受け入れを／・母子生活支援施設を建て替え二四時間の子ども家庭支援センターを（計画化）／・子どもショートステイや夜間預かるトワイライトステイを（計画化）／・区立幼稚園を子どもたちのより良い育ちの場に（計画化）／・認可外保育園の子どもたちへの支援を（一部実現）／・保育園の民間業者の選定基準の明確化（実現）／・児童館機能の地域展開を（計画化）／・事業者へ次世代育成支援行動計画策定の啓発を（実現）

ひとりひとりの尊厳を大切に

・新しい中野区基本構想に「人びとの自由と尊厳」を入れ、性同一性障がい者に配慮して、公的書類から不要な性別欄を削除。審議会などへの女性の参画率四〇%を目指しています。

プライバシーの保護

・住民基本台帳大量閲覧の制限、「国勢調査で全部封入提出方式」を実現。

DV被害者の支援

・「DV被害者の支援のしおり」を作成、「DVの相談関係機関の情報」を提供、「DV・ストーカー被害者の住民票の閲覧・交付制限」を実施し、「女性のためのシェルター支援」を提案しています。
・相手を尊重しあうエイズ教育・性教育を実現。人間関係づくりの体験学習を一部実現しました。

区民の力で新しい公共サービスづくり

- ・市民の寄付金による市民活動助成事業を。
- ・審査の基準を明確にした補助金交付の透明化。
- ・指定管理者制度の総合的な条例制定。
- ・図書館運営の担い手にNPOを登用。
- ・地域団体の力を学校施設に生かした子ども支援の場を拡大。
- ・NPO支援条例をつくり、NPOセンターの実現も図っています。

徹底した情報公開と市民参加を

- ・ 区民参加の仕組みも定めた総合的な自治基本条例を策定。
 - ・ 市民参加型の行政外部評価を条例に入れました。
 - ・ 中野区ホームページの充実を図り、区民の声を受けとめる区政、区民参加をすすめています。
- 入札制度の改革では、違法な分割発注をなくすことを実現。環境配慮や障がい者雇用などを評価した「総合評価入札制度」を提案。一部実現しました。

環境を守る

- ・ 江古田の森の樹木の保全を要求し、実現。
- ・ CO2削減の達成状況の年次報告、アスベスト対策を徹底的に行うことを提案、いずれも実現。
- ・ 地球温暖化防止条例や計画の策定、太陽光発電など自然エネルギーの導入を、警察大学跡地について四ヘクタールの緑の防災公園を提案し、すべて計画化されました。

持続可能な区政への転換を

中野区職員白書と人材育成計画の策定や、区職員の特殊勤務手当の廃止を実現。財政状況の情報をいつでも見られるようにする、財政負担を残さず中野サンプラザの維持を、外郭団体の見直しと短時間公務員制度の検討などは、一部実現。学校施設の立替など必要な基金の積み立て、次世代のために施設配置や運営の見直しなどの要求は計画化されました。そのほか「縦割り行政からの脱却」を要求

中です。

一方、「障害者自立支援法は私たち抜きに私たちのことを決めないで」、「障がい者通所施設建設の補助金支援を」、「ヘルパーの報酬を下げないで」、「DV法改正で国会ロビー活動」、「パート労働法の改正」、「自衛隊イラク派遣の中止」などを、国に訴えました。

また、一六年前、中野区で初めて議員報酬などを公表。その後も、議員報酬と、その支出の内容を、佐藤ひろ子の季刊誌『うさぎだより』に、毎月掲載しています。

「残」とあるのは、生活費です。

二〇〇六年一〇月～二〇〇七年一月の、私の収支は、下記のとおりです。

議会に出席すると、一日につき三千円支給される「費用弁償」は、本来ならなくすべきですが、区に返すことはできないので、積み立てて区外の団体に寄付をしています。

今回は一〇万円を被災地障がい者支援のための「ゆめ風基金」に寄付しました。

ひろ子の1か月の収支

	10月	11月	12月	期末手当	1月
収入 報酬	588,200	630,877	617,600	1,477,608	617,600
費用 弁償	24,000	30,000	15,000	—	15,000
支出 税金	58,560	65,140	△61,969	224,601	69,480
年金・保険	151,680	151,680	151,680	73,850	151,680
活動費	54,108	71,523	57,616	500,000	53,841
積み立て	24,000	30,000	15,000	500,00	15,000
残	323,852	342,534	470,273	179,157	342,599

プロフィール

一九五一年 大阪に生まれる

一九七〇年 東京女子大入学／「障害者」の介助スタッフとして活動

一九七五年 育友会教育研究所講師

一九七八年 中野一丁目に住む

一九七九年 生活クラブ生協石けん部長

一九八五年 もみじ山保育園父母会をつくる

一九八六年 谷戸小学校PTA活動

一九九〇年 中野区消費者団体連絡会で活動

一九九一年 区議会議員に無所属で初当選

二〇〇二年 新区長を誕生させ財政破たんの中野区を立て直す

二〇〇七年 立教大学大学院二一世紀社会デザイン研究科修士課程

◆四期一六年の間、情報公開と住民参加の仕組みづくり、障がい者支援、介護や保育など、福祉サービス充実、大型ハコモノ計画を中止させ財政再建に取り組む

◆全国の無所属議員でつくる「虹と緑の五〇〇人リスト」・ローカルマニフェスト推進地方議員連盟会員。
地域から政治をきれいに変える活動などに取り組む

*好きなこと 山歩き

*家族 夫、娘二人、ネコ二匹

佐藤ひろこさんを推薦します



- 安積遊歩 (カウンセラー)
- 池田祥子 (東京立正短大教授)
- 北村年子 (フリージャーナリスト)
- 町居幸治 (中野難病家族会会長)
- 中村陽一 (立教大学大学院教授)
- 山田 真 (小児科医)

毎号送られてくる『うさぎだより』に感心しています

いま中野区がどういう方向に動いていて、佐藤さんは、どんな活動をしておられるか——。明快でさっぱりした文章と、歳費の公開に、いつも感心しています。

こんな方が、どの県でも、どの市でも、どの区でも、議員さんになってくださると、日本の状況も変わり、みんなが幸せになるのです……。

(あごら) 斎藤千代

政治を変える年

東京・武蔵野市 市民の党 山本ひとみ

格差社会を変えよう！

年末、ご近所の方から、高齢者の税金の負担がどのようなものか知って欲しいとの電話があり、下の表にあるような状況を教えていただきました。なんと、二年前に比べ、所得税が二八倍になっているということです。所得税以外にも、高齢者は住民税も介護保険料も大幅に引き上げられました。

高齢者だけではありません。「息子は派遣社員なので、三〇代でも三〇〇万円にも満たない年収。結婚できる見通しもない」と親の世代の心配の声も聞きました。

現在、日本では、国民の平均所得の半分以下の所得しかない貧困層が一五・三％。これは、先進国中、第二位の貧困率です。一方、一部の企業は、非正規雇用の拡大・法人税減税で、最高の収益をあげています。

しかし、政府は、一二月一四日、法人税減税や証券税制の優遇措置の延長などを中心とする二〇〇七年度の税制改革大綱を

2年間で所得税が28倍に！

～武蔵野市境南町の80代男性の例～

年 度	収 入	所得税
2003年	3,625,264円	3,700円
2004年	3,607,030円	34,200円
2005年	3,603,396円	103,126円

決定しました。さらに来年度は「定率減税の全廃」による増税も待ちかまえています。

これではさらに格差が拡大し、社会が不安定になり、発展の活力が失われるばかりです。格差社会をただすことこそ、政治の最も重要な役割であると思います。

市議会を変えよう！

武蔵野市では、一昨年、市長が交代しました。市長の退職金や交際費の削減など、改革が前進した点もありますが、武蔵野ブレイス（仮称）（図書館、会議室、スタジオ、ホールなどを内容とする贅沢な複合文化施設。建設コスト五九億円、ランニングコスト一日一〇〇万円）の規模やコストの削減は、市議会多数派である自民・公明などの抵抗で立ち往生しています。また、国の制度改悪で後退した、高齢者や障害者の福祉に対しては、市独自の対応に乏しいばかりか、介護保険利用料七%助成の廃止などを決定したにもかかわらず、議会では十分な論議がありません。

市民の期待する改革を進めるためには、今の市議会を変えなければなりません。党利党略にとらわれず、長期的な財政見通しを持ち、市民の利益をしっかりと主張できる議員を市議会に増やすことがどうしても必要です。

〈市民の党〉は、特定の団体に頼らず、市民一人ひとりのカンパとボランティアで、各種の選挙をたたかってきました。政治を変えるには、市民のボランティア選挙を広げていくことから始めなければなりません。昨年相次いだ全国各地の知事の逮捕は、企業や業界団体頼みの選挙が、官制談合などの腐敗と利権政治を生むことを示しています。統一地方選挙と参議院選挙のある今年を、「政治を変える年」にできるよう、全力で頑張っていきたいと思います。皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

武蔵野らしい街づくりを提案しました ——二〇〇六年の取り組みから

・ムーバス（小型のコミュニティバス。一回一〇〇円で乗車でき、多くの市民に利用されている）に
ノンストップ車両を——新路線から導入されます。

・介護保険利用料七％助成制度の廃止に反対し、制度存続を訴えました。

・障害者自立支援法施行による負担増に対し、実態調査と市独自の負担軽減策の実施を求めました。

・安心安全な放課後を——学童クラブの校内移転は、北町こどもクラブの第四小学校内への移転が実現。

・吉祥寺北町・境南町などの水害に対し、早急な対応を求めました。

・一六キロで二兆円の高速道路——外環道路は、税金のムダ使いです。事業化への大きなステップとなる地下トンネル方式への都市計画変更を承認しないよう、市長に要望しました。

後退した武蔵野市の高齢者福祉 安心して介護を受けられるまちに

介護保険の七％助成が六月末で廃止！ 利用料は三倍強に

介護保険制度導入以来、武蔵野市が実施してきた在宅サービス（訪問介護・通所介護・通所リハビリテーション）の介護保険利用料助成制度が、昨年六月末で廃止されました。この制度は武蔵野市独自の制度で、「すべての利用者に対して自己負担一〇％のうち七％を市が助成する」もの。全国的にも大きく注目され、市民にも歓迎されていました。

それが、七月から、「ごくわずかな低所得者（約五七〇人）にだけ、三年間の期間で五％助成をする制度」

に変わったのです。一挙に三倍強にもなった負担に耐えられないと、ホームヘルパー利用を減らす高齢者は、あとをたちません。必要なサービスを受けられなければ、状態は悪化します。ヘルパーさんの仕事が減る例も出ており、事業者の悲鳴も聞こえてきます。

厚生委員会で質問しました（〇六年三月一三日）

山本 一月に「制度の廃止には反対」と意見を述べました。高額所得者に対しては廃止して差し支えないけれども、なぜ「原則廃止」とするのですか。

市長 七%助成の目的は、介護保険導入による激変緩和と利用促進であるが、六年間で成果が出たため、「原則廃止」とした。

山本 利用者や事業者・ヘルパーにも影響が大きいと予想されますが……。

介護保険課長（利用は）制度をやめても、大きく変動することはないと考えている。

*〇六年三月議会で、助成制度の廃止にかかわる関連条例と介護保険事業特別会計予算に、「反対」の態度をとったのは私だけでした。心配が現実となって、残念です。

なぜ、一億五〇〇〇万円のお金が出せないのか？

利用料助成に必要な経費は、二〇〇四年度で一億五七八五万円。二〇〇八年度の見込みでも二億三六〇〇万円と試算されていました。武蔵野プレイスに、建設費五九億円・維持費一日一〇〇万円も、つき込むより、この利用料助成制度を続けることが、活きたお金の使い方ではないでしょうか。

武蔵野市の六五歳以上の高齢者は、約一八%。五人に一人が高齢者という時代が目前です。高齢者・

年金生活者暮らしは、あいつぐ住民税増税や医療費負担増で、厳しさを増しています。こんな時に、高齢者福祉の後退は、市民の利益をそこなうものです。誰もが安心して介護が受けられるよう、制度の改善を強く訴えていきたいと思っています。

市民の力で政権交代を！ 格差をただし、アジアと共に生きる日本へ

「いざなぎ景気を超えた」と、政府は景気回復を宣伝していますが、多くの勤労者は、その恩恵の外。経済的な格差は、さらに拡大しています。

武蔵野市でも、「年金は変わらないのに住民税が何倍にも増えて、何かの間違いかと思った」「一〇月から病院での負担が三割になった。八〇歳になっても死ぬまで三割なのか」「父親のリストラで、子どもが私立高校へ進学できない」など、怒りや不安の声が寄せられています。

二〇〇四年と、五年の、相つぐ税制改正で、高齢者の住民税は、大幅アップ。医療費も、一〇月から、七〇歳以上の高齢者のうち現役並みの所得のある人は「三割負担」となりました。

若者が希望をもち、高齢者が不安なく年を重ねることのできる社会とは、ほど遠くなっています。

一昨年の都議会議員選挙では、定数一の武蔵野選挙区で、《市民の党》と民主党が候補者を一本化して闘い、自民党の現職候補を破りました。昨年七月の滋賀県知事選挙では、市民のボランティア選挙でたたかった嘉田由紀子さんが、自民・公明・民主相乗りの現職知事を破って当選しました。《市民の党》は、政権交代への流れを強め、市民の力を育てるため、神奈川一六区衆議院補欠選挙・沖縄権知事選挙にも取り組みました。

市民の力で、政権交代を実現しましょう。格差をただし、「アジアと共に生きる日本」をつくりましょう。

市民の党は、市民のための改革をすすめます！

武蔵野プレイス縮小案をめぐって、市議会は、予算否決→暫定予算成立→市長の縮小案撤回→修正予算成立と揺れ動きました。予算を人質に市長攻撃を続けた自民・公明・市民クラブ。議会内での駆け引きを重視し、改革に期待する市民の力を活かしたい市長・与党。市民の声は、なかなか届きません。市議会議員選挙で、新しい力を増やし、市議会を変えましょう。

武蔵野プレイス

一世帯あたり八万五千円のハコモノは高すぎる！

三月議会で、自民・公明・市民クラブは、市長の武蔵野プレイス（仮称）一三億円縮小案を最大の理由として予算に反対。追い込まれた市長は縮小案をいったん撤回し、「基本設計に立ち戻って専門家会議で再検討する」方針を表明しました。

市議会臨時会での質疑（五月二三日）

山本 市長は、「ハコモノ建設の抜本的見直し」という公約実行のため、どういう努力をされたのか。
市長 武蔵野プレイスについても、いかにコストを下げていくかという視点は必ず必要と思っている。

〔基本設計のココが問題〕

- ① 高すぎるコスト——建設費五九億円・維持費一日一〇〇万円（年間三億七千万円）
- ② 市民の意見が反映されていない——市民アンケートも市民委員会も、まだ実施されていない。

③ 建設のムダ——二〇〇人規模の会議室は不要。すぐ北にシングホール・市民会館があります。

吹き抜けや回廊階段も、ぜいたく。

④ 公園のあり方——緑・自然を重視する市民の声は、置き去りに。

武蔵野ブレイスのコスト削減——税金のムダ遣いをただすことができるかどうかは、「市民の声がどれだけ大きくなるか」にかかっています。

行政改革 市長退職金の引き下げが実現しました

一期四年で、一、七二二万円という高額で批判の強かった市長退職金は、九月議会で引き下げに関する議案が可決されました。

これによって、三年後、現市長に支給される退職金は、これまでの約三分の一、約五五六万円になります。

私は、「退職金削減は今回限りでなく恒久的なものとし、さらに、助役・収入役など、やはり四年に一回退職金が支給される特別職や、外郭団体（財政援助出資団体）の理事長などの退職金削減も併せて実施すべきでは」と訴えましたが、こうした点は、今回の議案に含まれていません。引き続き訴えていきます。

障害者自立支援法 市は独自の負担軽減策を

昨年四月から施行された障害者自立支援法で、福祉サービスにかかる費用を、利用者が原則として一割負担することになりました。障害者やその家族が収入を増やす手立てに乏しい中での負担増は、

利用を制約することにつながり、福祉の後退を招いています。

また、事業者も、報酬単価引き下げや月額制から日額制への変更で、経営が困難になり、人員整理や賃下げに追い込まれている例が多数出ています。

九月議会では、利用者、事業者、ヘルパーの実態調査と一〇月から実施される地域生活支援事業の費用負担の軽減、政府に制度の見直しを要望することを、市長に求めました。

議会改革 政務調査費の透明化、議員報酬は一割カットを

一二月二二日の特別職報酬等審議会で、私は、政務調査費の報告の透明化と議員報酬の一割カットを主張しました。

二年前に（市民の党）が提案した、「政務調査費の報告に領収書を添付すること」は、今年度から実施されるようになりましたが、さらに市民への説明責任を果たしうる報告内容となるよう、改善を求めています。

議員の報酬は勤労者の平均的な賃金と同水準にすべきと考えています。

一二月議会でも、市議会議員の定数が三〇人から二六人に削減される条例が可決成立しました。

議会も行政改革の対象であるべきであり、四人の削減は活動に緊張感と活性化をもたらすと考え、私は賛成しました。

市民の立場に立った改革を進める議員を増やすため、〈市民の党〉は、四月の市議会議員選挙に全力を尽くします。

四期目の立候補にあたって

私は、十二年前の初当選以来、既成政党に頼らず、企業・労働組合・宗教団体など、特定の団体の利益にしばられず、市民のカンパとボランティアで選挙に取り組んできました。

いま、介護・医療・教育・雇用など様々な分野での格差の拡大が、市民の生活を脅かし、社会を不安定にしています。武蔵野市でも、福祉の後退に対し、これまで以上に独自の取り組みが求められています。

私は、豪華すぎるハコモノ建設の見直しを、一貫して訴えてきました。五十九億円の建設費と、一日百万円もの維持費がかかる大型施設・武蔵野プレイス(仮称)の建設コストを削減し、税金のムダ遣いを無くすことは、福祉、子育て支援、環境対策などの充実のために、ぜひとも必要です。格差をただす政治を実現するため、全力を尽くします。

山本 ひとみ

プロフィール

- ◆1955年、岡山県倉敷市生まれ。県立岡山大安寺高校を経て京都大学文学部史学科で現代史を専攻。
- ◆働きながら市民運動に参加、保育園・学童クラブ父母会活動に取り組む。
- ◆95年より武蔵野市議会議員3期。
- ◆「土地開発公社の廃止・市政情報の全面公開」を訴え、情報公開条例改正を実現。
- ◆イラク戦争に反対し、ピースウォークや現地報告会を呼びかける。
- ◆喜納昌吉参議院議員・嘉田由紀子滋賀県知事などの市民選挙をボランティアで応援。
- ◆家族は、夫と都立高校に通う娘、ミニチュアダックス犬。

「知性と感性のひとみちゃん」に、ひと目ぼれ

ひとみちゃんとおつきあいは、たしか小選挙区制反対運動に始まった、と記憶している。

集会での発言に感動、私が話しかけたことを、ひとみちゃんは、「お若いのに、いい発言をなさいますね」とサイトーさんにほめられた、と記憶しておられた。

パパと一緒に、まだ二歳くらいのお嬢ちゃんを、集会にいつも連れていらしたのも印象的。

話の盛り上がり熱中するお母さんは、お嬢ちゃんをほっぽりだし、心得たものでお嬢ちゃんは静かに独り遊び。パパとママは、ただただ過激に論理的に。そしてお二人とも政治家になられた。

そのお嬢ちゃんが去年高校入学とは、私のシワも深くなったはずと感慨にひたりながら、「お二人の血を受けたお嬢ちゃんは、きっと未来の大政治家になる。」と想像したりしている。〈市民の党〉専従の山本氏は、今回は同じ選挙区でお立ちの由。「お二人で共に乾杯！」の日を祈っている。

（あごろ）斎藤千代



おつれあいとは、京大のサークルで意気投合。以来、一貫して同志。

こだわって地域――

変えます！議会

つくります！仕事

東京・国立市

小川ひろみ

国立に移り住んでから、子育てしながら仕事や市民活動、学習など、人の輪のなかで、たくさんの支援に支えられて暮らしてきました。このまちで育まれてきた自治や環境に、市民の自負と伝統を感じます。地域の力・支援の輪をさらに充実させ、男も女も働きながら、子育てにしっかり向き合えるまちをつくります。地方分権が問われるいま、子どもたちが伸びやかに学び・遊ぶ学校や、地域の貴重な資源「人・モノ・自然」を活かした、暮らしやすいまちの実現に、力を注ぎます。

地域から平和をつくる

かけがえない平和は、いわれない差別、右へならえの慣習、上からの画一化の流れに浸されています。私は、日常の些細な変化に気を配っていたい。学校・地域・職場が、信頼を基本に、広く自由な場であるよう、力を尽くします。

子育ての環境作りは「世直し」

少子化、いじめ、ひきこもり、過度な競争教育など、子どもの問題は社会の問題です。まちの中に、ひょっこり貌を出させるたまり場、学び合える場が必要です。

子どもの育ちをまちぐるみで応援する環境をつくります。

子どもの笑顔と個性が輝くまち「くにたち」を、みなさんとともにつくります!

「市民に役立つ議会」に変える

☆行政情報をわかりやすく公開する

☆「市民と対話する議会」をつくる

☆市民がいつでも議会中継を見られるようにする

☆議会基本条例をつくる

誰もが地域で「自分らしく暮らす」

☆すべての人の人権を尊重し、困った時の相談窓口を充実する

☆保健・福祉・医療の連携で〈地域ケアシステム〉をつくる

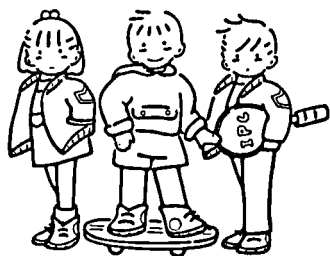
☆グループホームや小規模多機能な生活の場をつくる

☆公共施設や空き店舗を活用し、世代を超えた交流の場をつくる

子どもの育ちを「まちぐるみで応援」する

☆小学生が放課後、安心して過ごせる居場所をたくさんつくる

☆オンブズ機能をもった「子ども権利条例」をつくる



「住民投票条例」をつくる

平和を地域からつくる！

防災のまちづくりは 市民参加で！

仕事と生活が両立できる 元気なまち

☆市民・NPO・企業・行政の協働の事業を広げる

☆市民税の1%をNPO支援に使うしくみをつくる

☆障がいのある人もない人も対等に働く場をつくる

☆地産地消で地域内自給をすすめる

☆歩行者・自転車・公共交通を組み合わせ、交通ネットワークを整える

☆「国立駅舎を活かした駅周辺のまちづくり」を市民参加ですすめる

緑を育て水循環をとりもどす

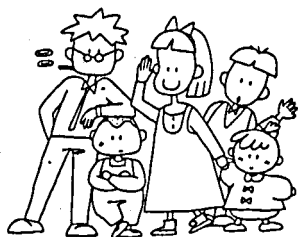
☆安全でおいしい地下水を飲み続けるために「地下水・湧水保全条例」をつくる

☆崖線の緑を守り、公園・農地・緑をつなげた〈緑のネットワーク〉をつくる

ごみは資源！

☆ごみ減量の徹底

☆生ごみの堆肥化



原爆ドームがひろみさんの原点

村上光彦

小川ひろみさんは高校二年生のとき、初めて原爆ドームを仰ぎ見て心身を揺すぶられました。

——そう語った大学二年次のひろみさんの真剣な口調が忘れられません。

「みんなが健やかで豊かな市民生活を」という志の原点がそこにあります。

(フランス文学者、成蹊大学名誉教授、大佛次郎研究会会長)

情も理もあるひろみさん

斎藤千代

一見冷静な理論家に見えるひろみさん。しかし〈情〉にも心を動かす人です。生活クラブ生協の方がたが、「ひろみさんこそ」と思い、ご本人もその気になられたというのは、なっとくできます。

一人娘の「ことはちゃん」を育てながら、大学の同級だったお連れ合いの学業と執筆を支え、そのおつれあい和也さんは『鞍馬天狗とは何者か——大佛次郎の戦中と戦後』(二〇〇六年、藤原書店)で、みごと作家デビュー。二〇〇七年、芸術選奨・文部科学大臣新人賞(評論部門)を受賞。いま最も注目されている新人。

市会議員のお仕事には、和也さんが、きっと有力なブレインの一人になってくださるでしょう。二人三脚を期待しています。

(あこら事務局)

プロフィール

一九六三年 東京都品川区に生まれる

普連土学園中・高卒業（AFS留学生として
豪州へ一年）

一九八七年 成蹊大学文学部文化学科卒業

劇団「山本安英の会」事務局勤務・「こと
ばの勉強会」などを担当

一九九九年 津田塾大学大学院国際関係学科修士取得

二〇〇一年 女兒出産後、女のひろば（あごら）事務局
に勤務

二〇〇三年 生活者ネットワーク事務局長、生活クラブ
生協北地域リーダー、保育園指定管理者制
度「検討宇部会」保護者代表、市民サーク
ル「凡人会」メンバー。「凡人会」と加藤
周二氏との共著が二冊。

- 家族…夫、子ども（四月に小学校に）
- 国立市北在住
- 趣味…ローソク集め・文学・まち歩き

小川ひろみが活動する〈生活者ネットワーク〉は 三つのルールを持つ〈地域政党〉です。

1. 議員はローテーション

生活者ネットの議員は最長3期12年で交代し、議員を職業化、
特権化しません。ローテーション後は、市民運動活動などに経
験を生かします。

2. 議員報酬は市民の活動資金に！

議員報酬は市民の政治活動資金として使い、お金の流れは、す
べて公開します。

3. 選挙はすべて手づくりで

選挙は市民のカンパとボランティアで行います。



私たちが推せんします

天笠 啓介（科学ジャーナリスト）

井筒 和幸（映画監督）

大橋 昌城（滝乃川学園史に学ぶ会）

加藤 健一（俳優）

香丸眞理子（在宅福祉団体・理事長）

斎藤 千代（『あごら』編集者）

鈴木 礼子（多摩きた生活クラブ）

生協理事長)

前納 寛乃（中学生の広場代表）

村上 光彦（成蹊大学名誉教授）

和波 孝禧 (ヴァイオリニスト)

〈三たびのチャレンジ〉への思い

山梨県都留市議会 議員候補予定 清水絹代

三月末日まで県嘱託職員としての立場にあり、過去二回の選挙での体験による市民の意識の低さへのむなしさ、とりわけ女性の意識レベルの低さと、露骨な金品での買収行為の横行に、改革への意欲も萎え、今席の市議会への出馬には、ためらいがありました。

また栄養士の立場では、国の「食育基本法制定、基本計画策定」により、ようやく動き出した食への取り組みで、さまざまな形でたいへん忙しく充実した日々になっております。

今年度は、「都留（つる）市における食育基本計画の策定」にかかりましたが、行政は形をつくることにとらわれ、実践への道は厳しいことを実感しました。

おおくのことが同様に扱われ、いま取り組んでいる「自治基本条例」も、「住民参画で……」の形式はとっていますが、的確なリーダーがいらないなかでの急ぎ足の進行に、メンバーの一員としてトップの姿勢に疑問を感じるようになりました。

「ユニバーサルデザイン」を高だかと謳いながら、女性の視点が抜けているまちづくりに、女性議員の必要性とを痛感するとともに、夕張市の轍を踏まないように一票の重さを知ってほしいという思いが深まりました。親戚と買収（一票、一〜二万円）が平然と横行する相変わらぬの甲州選挙への憤怒に立って、三たび立候補することを決意しました。

選挙に出るんじゃないお金がかかるんでしょうね——これが、多くの住民の意識ですが、過去二回の選挙をして見えてきた「選挙公費のずさんな使い方」にも住民の関心を促したく、前回の各候補者の「選挙公費報告書」をもとに、真実を市民にお知らせするつもりです。

選挙に際し、立候補者にお金を支払われることを、ご存じない方も多いようですが、選挙戦を戦った者には、都留市の場合、一人あたり七〇万円ちか税金が支払われるのです。しかも、「不正な使い方」を業者と候補者の間で暗黙の諒解のように続けている現状が、まったく表面化しなかったことも怒りを感じるようになりました。「選挙費用」として市に請求されるポスター代が、なんと一枚約三〇〇〇円（私は七〇〇円）。燃料費は、使いきれないはずの限度額まで請求。これが、ほとんどの候補者の請求額です。総額八〇〇万円近い不正請求がされているのを、市民のほとんどがご存じない状況です。

この問題は、二〇〇一年に武蔵村山市の女性議員が調査、朝日新聞に掲載され、その後、各地の議会で改革が進み、広報に個々の候補者の公費報告が掲載されるようになりました。住民に知らせなければならぬたいへん大きな問題です。

「財政を学び、情報公開をしつかりできる人を選ぶ選挙民になってほしい」
「しがらみにとらわれない選挙をしてほしい」

「誰にも遠慮することのない責任ある一票であることを知ってほしい」
と、切実に感じています。奇跡がおき、当選できたら、思う存分、議員としての仕事をしたいと夢見ています。どうか奇跡が起きますように。

〈金権山梨〉に 捨て身でたたかう

清水さんをぜひ議員に！

斎藤 千代

清水さんにお目にかかったのは、たしか二度だったと記憶しています。二度とも、〈あごろ〉の小さな集会でした。最初にいらつしやったとき、山ほどの芹を持って来てくださって、集いが、自然の香りに包まれました。

じみで目立たない、だからこそ誠実な方、という印象を受けましたが、話し合いが始まると、建設的なお話を筋道立ててきちんと展開され、〈情も理もある方〉という思いを深くしました。

八年前も、四年前も、あの〈甲州選挙〉の中で苦勞され、今年はもう断念されたかと思っていまして、三たびチャレンジされるとのこと。「さすが〈あごろメイト〉！」と感動してお電話したところ、想像を絶するようなお話をうかがいました。

「金丸金権」で知られる山梨の風土は、二二世紀に入っても、少しも変わらないどころか、ますますその度を深めているとのこと。前二回とも、二二名の定員に二六名の立候補と言えば、「数少ない女性候補者清水さんは有利」と考えてしまいがちですが、「女性が立つ」ということだけで、有形無形のあらゆる迫害を受け、前々回、前回とも、清水さんはボロボロになってしまわれた由です。

山梨では、投票の動機は、すべて「お金」。「誰がいくらお金を包むか」で、投票日のはるか前から一票のゆくえは決まっているそうです。都留市では、市議の歳費は月額三五万円、年額七〇〇万円で

すが、立候補者のほとんどすべては裕福な人びと。歳費が、次の選挙の買収資金にあてられ、市民も当然のこととしてそれを期待している。その弊風を誰かが正さなければ、という思いで、清水さんは八年前も四年前も立候補されたとのこと。しかし、落選に嘲笑と罵声を受け、「小・中・高校の同級生さ意味方にはなりたがらない結果に、深く傷ついた」というお話も、初めてうかがいました。いつも、もの静かで、やさしい笑みを浮かべていらつしやる清水さんに、そんな悲しみと苦しさがあつたとは……。

「でも、だからこそ、今度は立つことにしました」と、清水さんのお声はキツパリしていました。

「私は山梨が好きです。都留が好きです。だから、また立ちます」

その清水さんに、今度は小・中・高校時代の同級生たちも、少数ながら動き始めたとのこと。

お話をうかがっているうちに涙が出ました。日本にまだ、そんな地域があつたのです。そんな地域が、多分まだ、そこそこにある。だから何回選挙をしても保守党が勝つ。そして安倍さんは平然と、大方の国民の民意にそむく決定をし、それを爾々とすすめる。――選挙を措いて日本を変える方法はない。厚い金権風土に、ほとんど単身でチャレンジを続ける清水さん。

「選挙の時でなければ金権体質への怒りを公衆に考えてもらうチャンスは、ありません。だからこそ今度も立ちます」

という絹代さんを、〈あごろ〉を挙げて応援しましょう。

都留市や山梨に友人知人をお持ちの方は、この号の必要部数をお知らせください。何部でも無料でお届けします。県民の中には金権風土を情けなく思っている方も、必ずいらつしやるはずですよ。できるかぎりの行動を！ 絹代さん、大変でしょうけれど、おからだを大切に、吉報を信じています。

「女性放送記者の目」で岐阜市政に切り込みます

岐阜市 高橋 かずえ

私は地元の岐阜放送で三八年間働いてきました。

入社して約二〇年は、二人の子どもを育てながらアナウンサーとして頑張りました。「結婚したら退職する」という不文律が生きていた時代に、男性が多数を占めるメディアの中で、「女性の声」を伝えたいという思いで取り組んできました。

岐阜放送では、第一号の女性記者でした。その後、定年退職までは岐阜市政の担当記者として、市議会のテレビ中継で解説を担当するなど、女性の職域を広げました。椿洞の「産業不法投棄」が大問題になった時期も、カメラを担いで走り回りながら、悪質業者の行為に強い憤りを感じ、産廃を長年放置した岐阜市政への疑問が湧きました。

岐阜市議会の傍聴は退職後も続け、岐阜市政に対して危機感がいつそうつのりました。

私はこれまでの取材経験、放送の現場で培ってきた「女性放送記者の目」を、市政、市議会に生かしたいと思いました。また、「介護」の問題も、六年間、記者として追いかけて続け、退職後、ボランティア・アドバイザーとして大垣市社会福祉協議会で働き、福祉の現場も体験しました。

こうした自分の経験を岐阜市民のために、社会のために、生かしていきたいと決意をしました。何の後ろだてもない私です。あなたのご支援、ご指導を心より願います。

岐阜市政に新しい風を！

「岐阜市は 活気がないよね」とみんなが言っています。活気を取り戻すには、どうしたらいいか。自転車で市内を回り、市民の皆さんの声を聞き、さまざまな市民活動に参加しながら考えました。

市民のみなさん方の声から「福祉」や「介護」のさまざまなサービスがよくわからず、困っていることがなかなか解決できないなど、行政との距離があることがわかりました。

でも、身近に希望はあります。「子ども」の健全な育成を願った地域の大人たちのボランティア活動や、伝統ある「町家・古民家」を存続させようとする活動。絶滅危惧種に指定されている「ヒメコウホネ」を守る活動など、さまざまな市民活動が根付いていることを実感しました。

一方、椿洞の「産業廃棄物不法処理問題」に対し、地元の方たちは地下水の汚染など「未来を担う子どもや孫の健康」に不安を訴えていました。

そこへ、たいへんな問題が発覚しました。二〇〇六年七月六日、岐阜県の一九九二年からの一二年間の裏金の総額は、一七億円と判明したのです。

県は利子を含め一九億円二千万円を全額返済する方針を出しましたが、お金を返せばいいという問題ではない。このような問題を発生させた岐阜の自治体の体制自体のゆがみは何なのか、改善されていくのか……。行政への不信任が募るなか、「私たちの女性議員を出して、岐阜を立て直そう」という動きが生まれたのです。

この頃、私は、八月に岐阜県が企画した、「産業廃棄物の発生から最終処分までの、現場を回るバスツアー」に参加。明治製菓岐阜工場（北方町）↓住友大阪セメント岐阜工場（本巣市）↓産廃中間処理業による産廃不法投棄現場（岐阜市椿洞）↓寿和工業の管理型産廃最終処分場（多治見市）を見学しました。

椿洞の「善商」による産廃不法投棄現場は、現在は中に入ることができないため、バスを少し止めた状態での車内からの見学となりました。

この事件が発覚した二〇〇五年、岐阜放送の報道部にいた私は、報道記者として何度もこの現場取材しましたが、大量のゴミがむき出しになっていた現場は草に覆われ、当時の生なましい印象が大分薄れて見えました。

しかし、今もお、全国最大規模の量の産業廃棄物がこの下に眠っていることに変わりがないことを思い、地元自治会の皆さんが現場に立てた「全量撤去」の大きな看板が、悲痛な訴えをしているように感じました。

このバスツアーは夏休み中とあって、ほとんどが小学生とその親で、和やかな雰囲気でしたが、私は一人違和感を持っていました。

一九九六年の秋におきた御嵩町の柳川喜郎町長への盗聴や襲撃事件。

そして翌年、全国で初めて行われた産廃処理施設建設の是非を問う住民投票の結果、反対が八割近くを占めたこと。

その後、この多治見市に産廃の最終処理場が寿和工業によって建設された一連の流れを思い出したのです。

当時私は、事件の深刻さに緊張しつつ、連日御嵩町と岐阜市の間を往復して取材を行っていました。しかし事件から一〇年が経ち、事件と寿和工業との関係についてなど、自分の記憶の中でもこの事件が遠い存在となっていることに気づきました。

この御嵩町の事件をもう一度しっかり記憶し直そうと、バスツアー解散後、そのまま県立図書館に向かい、当時の新聞を読み直しました。

岐阜市の椿洞の産廃不法投棄の処理がこれから始まるというなか、地元住民の安全性への不安感をどれだけの人が共感できるのか。御嵩町の事件のように、関心が年と共に薄れていくことはないのか、と、バスツアーの参加者に配られたパンフレットの「美しい環境を未来へ」の文字を見ながら、元ジャーナリストとしての責任を自分に言い聞かせました。

このことが、市議選に立つきっかけになったと思います。

岐阜県政のあり方に、多くの県民が疑問を感じながら黙認してきたことを追求しきれなかった、政治記者としての自分の責任を感じ続けているからこそ、思いもかけなかった、「市議への突然の要請」をお受けした次第です。

記者時代に叩き込まれた取材精神で、どんな難問でも、手間ひま惜しまず取材し、問題を見つけたときは、おめず憶せず、徹底的に追求することは、はつきりとお約束し、それを貫きます。

高橋かずえさんは、こんな人です。

一九六三年 愛知県立明和高等学校卒業

一九六七年 岐阜放送入社

報道部門でアナウンサー、記者としてニュース取材や、岐阜市議会中継の解説、介護番組など担当。また国際婦人年以降は女性の視点からの番組作りにもあたる。

二〇〇五年 岐阜放送を定年退社

二〇〇五年 大垣市社会福祉協議会ボランティア アドバイザー



- ・ 現在、日本福祉大学通信教育部在学中
- ・ 法務省人権擁護委員
- ・ 岐阜県地方改善促進審議会委員
- ・ 岐阜市同和教育講師団委員
- ・ (有) 訪問介護サービス「そばの花」役員
- ・ 岐阜市女性問題連絡会会員
- ・ 元雇用均等行政協助員
- ・ 元NPO法人グッドライフ・サポートセンター理事

社会活動歴

平成元年～一六年 岐阜市女性の世紀二一委員会委員

平成六年～一〇年 岐阜県自然環境保全審議会委員

平成一五年～一七年 岐阜県青少年育成審議会委員

県内各地で「身近な人権問題」や「仕事と子育て・介護」などをテーマに、報道の経験から学んだことや女性の立場から講演活動もしています。

高橋かずえを支える仲間ネット〈ぎふたんぽぽ〉

ホンネで語り合い、その解決に向けて立ち向かうネットワーク〈ぎふたんぽぽ〉は、いま五つの目標を掲げています。

福祉……「介護」「福祉」の現場や家族の人たちの思いを活かし、誰もが大切にされる、あたたかな環境をつくりまします。

若者……若者が希望のもてるまちづくりに取り組みます。

子育て……安心して子どもを産み、育てられる条件を整備します。

環境……安心安全なくらしを守るために、便利で安全な地域交通網づくりはじめ環境整備に取り組みます。

まちづくり……東海自然歩道や長良川を活かした、自然と親しめるまちづくりに取り組みます。

この目標を市政に実現させるために、私たちは、高橋かずえさんを市会議員に推しました。あなたと一緒にいきいきとした岐阜市のまちづくりに取り組みます。ご参加をお待ちしています。

連絡先 〒500-8016 岐阜市松ケ枝町二〇一四

TEL・FAX 058-266-4563 ぎふ たんぼ

ジャーナリストの目で市政を監視し、改革してほしい

〈あこら東海〉 高橋ますみ

かずえさんは、〈あこら東海〉の活動でも、いつもポイントをついた鋭い視点の発言。

「岐阜放送の記者」とうかがって、納得しました。市議会中継もなさっていたとのこと。議員には最適の方だと思います。

私も以前、名古屋放送で働いていましたが、マスメディアで働かせて頂いたことが、その後の運動の原点になりました。

かずえさんは、鋭い目線を持ちながら、お心はいつも市民の立場。あたたかい。それだけに理不尽なことが許せない。県政ほどではありませんが、岐阜は、市政にも、たくさん問題があります。すぐお隣の名古屋とは、岐阜は、切っても切れない仲。

かずえさんを、心から支持し、ご当選後のご活躍に期待しています。

ぎふ市議会に



バリアフリー体験取材 (1990)

ジャーナリスト 高橋かずえの



市議会解説を終えて (2005.9)



新しい風を！



長良川のRAN'91 (1991)

目と心に期待！

環境・平和を守る政治を！

無党派・市民系 阿部悦子

私は一九九九年に、愛媛県で初めての女性の県議会議員として議会に送っていただき、現在二期目を終えようとしています。

八年間、無党派市民派の独り会派として、特に生活者、弱者助成の視点から、県行政のチェックと議会改革に取り組んできました。

〈愛媛県議会の閉鎖性と闘う〉

愛媛県議会は「オール与党体制」で数頼み。「議論の場」には、ほど遠い場所です。私は閉鎖的で理不尽な議会運営にメスを入れ、開かれた議会を実現するために働いてきました。

〈議員特権の廃止を〉

愛媛県議の年間収入（歳費）は約三百万円、さらに政務調査費として、毎月三三万円、年間にして三九六万円が支給されています。

しかし、政務調査費は、愛媛県議会では領収書添付が義務付けられておらず、不透明な会計です。また議員の海外視察は特定議員を排除して行われており、視察費用の内訳も非公開です。このような議員特権の廃止に向けて、市民の皆さんとともに活動を進めます。

〈地球が病んでいる〉

地球温暖化が進んでいます。「気候がおかしい」と、誰もが感じているのではないのでしょうか。去る二月には世界の英知を集めた「気候変動に関する政府間パネル」が、「このまま経済成長を追い求めれば、今世紀末には地球の平均気温は最大六・四℃上昇、海面も最大五九センチも上昇、台風の大化や高潮が懸念される」との声明を出しています。

また、「十年間このまま放置すれば、大洪水や干ばつ、水や食糧の不足、感染症の蔓延など、将来世代の生存そのものが危うい」とも警告しています。

〈環境政策の貧しい愛媛県〉

すでに二〇〇四年には愛媛県への台風の直撃が度重なり、県は復旧のために二四四億円の出費を余儀なくされました。にもかかわらず、愛媛県には温暖化対策に関わる予算をはじめ、自然を守る実効ある政策がありません。

〈平和と環境を守る〉

愛媛県は、県民の生命と環境を脅かす危険「プルサーマル計画」を導入しただけではなく、戦争を賛美する教科書採択を行い、圧倒的多数の議員、「戦争の放棄」をうたう憲法九条の改憲を進める立場をとっています。

このような時代にあつて、私は、今後も弱者の視点で、環境・平和を守るために働きます。

二期八年間の活動——質問などにより実現した主なこと

(その多くは住民運動、市民運動との連携による)

◆環境問題

- ・愛媛リゾート構想廃止
- ・海砂採取禁止
- ・浦山ダム建設中止
- ・今治吉海町、鉄鋼スラグの撤去
- ・松山第一種低層住宅専用地域でのスラグ撤去と土壌の入れ替えを約束させる
- ・今治市桜井、一般廃棄物処分場の水銀などの高濃度汚染を告発。隣接する産廃処分施設からの硫化水素を発見。海岸の汚染土壌の撤去を約束させる

◆福祉

- ・DV被害者一時避難所の居住環境改善
- ・松山市の古紙問題にとりくみ、零細業者の権利を守り、税金のムダ遣いを止めさせる

◆議会改革

- ・議会最終日の討論の検閲廃止
- ・本会議で再質問・再々質問が認められる
- ・県議会内の政務調査室設置
- ・常任委員会での録音はじまる

- ・県庁の助成職員の制服を廃止、男性職員も夏場ノーネクタイに
- ・県の機関での石けん使用

◆教育

- ・へき地医療に従事する学生への奨学金制度解説
- ・知的障がい児の高校進学をすすめる
- ・高校でのスクールセクハラを追及、当該職員は懲戒免職に
- ・擁護学校の問題箇所改築（障がい児の教育環境改善）

阿部悦子の討論回数は議会全体の四割！

四年間での本会議討論総数三四本のうち、阿部悦子は一四本の討論（平成一八年一二月議会まで）をしました。

- ☆「自衛隊のイラク派兵に反対する請願」の否決に反対
- ☆「山鳥坂ダム予算」肱川の環境を破壊し、治水の役に立たないダム予算に反対
- ☆「国民保護法関連議案」自治体の戦争協力を前提とする予算案に反対
- ☆「一七年度当初予算案」環境および福祉部門の予算削減に反対
- ☆「県警裏金問題・特別監査を求める道議」に賛成
- ☆「プルサーマル計画推進決議案」——原子炉の中でウランと一緒にプルトニウムを燃やすことにより核の危険が増大することへの反対　ほか、八本（討論全文は「阿部悦子と市民の広場」ホームページに掲載しています。）

愛媛県議会の閉鎖性を問う——議会を市民に開かれたものへ

◆議会の傍聴

常任委員会の傍聴は、わずか三名しか認められていません。しかも肝心の議会運営委員会や決算などの特別委員会の傍聴は全く認められていません。すべての議会の傍聴が認められて当然です。（常任委員会とは常設の、総務企画・環境保健福祉・農林水産・警察経済・建設・文教の各委員会のこと）

◆議会運営委員会

私など少数派議員の発言を封じています。それが閉鎖的な議会運営を温存する結果を生んでいます。すべての会派が参加して議会の運営を決定するべきです。（議会運営委員会では、本会議の発言者をはじめとした本会議の議題や委員会の運営方法など議員活動におけるほとんどのルールを決めます）

◆議会最終日の討論

発言者は、「何件あっても一議員五分以内」と制限されています。これでは内容のある自由な討論はできません。このような厳しい制限は、四国他県の議会にはありません。県民参加を進めるためにも、討論はもっと自由にすべきです。

◆海外視察の費用

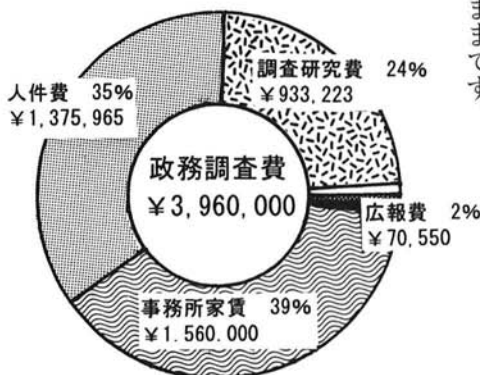
一人当たり一〇〇万円。帰国後にその内わけや領収書を求められても公開されません。広い視野での政策作りに海外視察の機会は生かされるべきですが、現在では不透明な議員特権になっています。

領収書不要の政務調査費

「政務調査費条例が」が制定された二〇〇一年二月議会で、領収書なしの政務調査費支出は「ヤミ給与」だと一人で反対しました。

二期目も一般質問において二回、領収書を添付すべきと本議会で訴えましたが、いまだに不透明なままです。

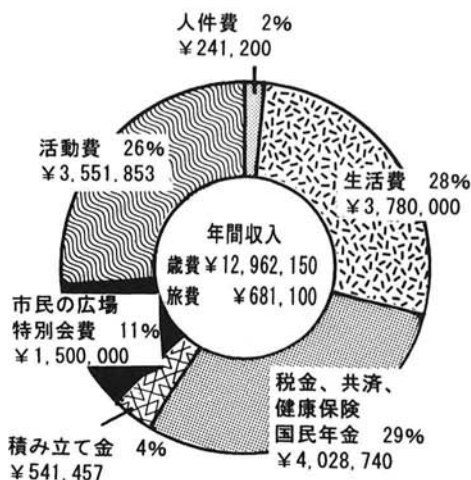
(05年4月～3月)



二〇〇六年の阿部悦子の収入と支出

愛媛県議の歳費は約一三六五万円です。

私は、会派向けの政務調査費(三九六万円)に加えて、歳費からも、人件費や活動費(旅費、資料代等)として、調査活動経費に、あてています。



阿部悦子 プロフィール



1980 今治市の学校給食の自校化運動を成功に導く

1987 織田が浜の埋め立て反対の運動を行う

1990 環瀬戸内海会議の設立、代表となる
立ち木トラスト運動などにより、
瀬戸内沿岸24カ所(県内では、旧北条市、
中島町、弓削町)のゴルフ場開発を中止させる。

1993 今治町づくりネットワークの代表として
行政計画への住民参加を求める
「行政手続条例」の直接請求運動を行う

1996～埋め立てや海砂採取の禁止を求める
瀬戸内法改正運動を行う

1999～県議会議員に初当選、県政初の女性県議となる

議会活性化、透明化(再質問・討論)に尽力する

海砂採取禁止を確約させる

浦山ダムや造船所に隣接する伯方中学校建設をストップさせる

2003～2期目の県議選に当選

障がい児教育・スクールセクハラ問題に力を尽くす

県リソート条例の廃止を勝ち取る(1990年から住民運動)

教科書裁判を支援する(戦争を賛美する教科書採用反対運動)

山鹿坂ダム問題、松山への分水中止へ導く

えひめ丸事件の真相究明と被害者によりそう活動を行う

松山市の学校給食の民間委託化に反対運動を行う

プルサーマルの反対運動や、県警裏金問題を追及する

吉海町のスラグ撤去を勝ち取る、また桜井の処分場問題を提起する

瀬戸内海の海岸生物100ヶ所調査にとりくむ



平和・人権

基本的人権を奪い戦争につながる憲法改正に反対します。日本がかつてアジア諸国を侵略した事実を踏まえ、近隣諸国と平和的な関係を構築できるよう、市民レベルの交流を推し進めています。現在、松山市の友好都市である韓国平澤市民との交流が始まっています。戦争を賛美する歴史教科書の採用中止を求めています。

環境・農業

脱原発により、安全で安心できる社会の実現をめざし、危険なプルサーマル計画には今後も中止を求めています。大量生産・大量消費・大量廃棄で成り立つ経済を見直し、汚染のない瀬戸内海と森の再生をめざし、健全な生活環境を追求します。環境保全型の第一次産業の振興と担い手の育成によって、食料自給率の向上をめざします。

憲法9条 脱原発
Noプルサーマル 脱大規模林道
ダイオキシン対策
持続可能性
多様性
非戦
脱車社会
ジェンダーフリー
温暖化対策
リデュース・リユース
脱ダム(いらない山鳥坂ダム)
有機農業
海岸生物調査
自己肯定
スローフード
住民投票
格差社会の是正 脱軍備
太陽光発電
住民自治
共生
脱石油社会・脱成長
地産地消・旬産旬消
自然エネルギー

教育・福祉・女性

子どもの人権を守るため、教育基本法の改訂に反対します。「教育としての学校給食」を実現するため直営・自校式の給食を求めます。医療・年金制度改訂や障害者自立支援法の施行で、障がい児(者)、難病患者、高齢者には重い負担が強いられています。すべての人に必要な医療・就労の場を提供できる社会を、また女性や少数者が公平に生かされる社会の実現をめざします。

議会・行政チェック

「オール与党体制」で多数頼み、正論が通用しない愛媛県議会です。閉鎖的で理不尽な議会運営と議員活動にメスを入れ、開かれた議会と県政の実現のために働きます。また、県費の裏金問題に象徴されるように、県民の税金が不当に使われている現実を変えるために、さらに無駄な公共事業を精査し、税金の使途を厳しくチェックします。

からだを張って愛媛を変えた！ 阿部悦子さん

阿部悦子さんというと、四国の女性では一番の知名人。四国の、という以上に全国に知られている活動家である。

八〇年代のすさまじい自然破壊の中でも、四国はとくに無惨だった。海亀が散乱する美しい砂浜は埋め立てられ、瀬戸内のゴルフ場は五〇〇か所から七〇〇か所に増えた。このとき市民の一人ひとりが木の所有者になる〈立ち木トラスト運動〉の先頭に立ったのが安倍さん。六千人の市民が、二四か所のゴルフ場計画を食い止めたが、豊島は産業廃棄物で荒廃。沿岸都市には工場が建ち並び、大規模林道が自然を破壊しつづけた。

阿部さんは、それに抵抗する〈環瀬戸内海会議〉の代表として奮闘を続ける。その闘いを共にする活動家の間に「実効のある運動にするためには県議会に入る必要があるのでは」という想いが広がり、一九九五年、その声に押されて阿部さんは県議会に挑戦。一四三票差で、次点となる。

これに恐怖を感じたのだろう。権力の側は、支持者たちを選挙違反で続々検挙。七六歳の女性までが、一三時間に及ぶ取り調べを受ける。阿部さんは過労と心労で倒れ、再起不能かと思われるほどの状態が続いた。

しかし、四年後、阿部さんは見事によりみがえり、初当選。仲間の意気も高揚した。とはいえ、愛媛県議会の七五％は自民党。質問に答える知事が「選挙中はお世話になりました」とあいさつするという実状。阿部さんも、その支持者たちも、それを目撃したことが、「議会改革」の志に火をつけた。

阿部さんが質問すると、「自分の意見を言うな」の怒号。そして、阿部さんの質問に拍手した傍聴席は、「つ

まみ出せー」の罵声に包まれる。やじられればやじられるほど燃える悦子さんと、その仲間。獅子奮迅の働きで、海砂利の採取禁止や伯方中学の建設予定地撤回などの懸案を、阿部さんが議場で提案、次つぎに、成就する。しかし議会の「悦子いじめ」には拍車がかかり、「扶桑社の教科書を採択した教育長を副知事にという議事」への反対討論は、「副知事になる人を傷つける」と、議会運営委員会が反対、議運は、「討論希望者は委員長に要旨を提出、議運で発言の可否を決める」と議決、阻止される。

そのなまなましい状況を目撃した、傍聴の「悦子応援団」は、ますます闘志を燃やし、「えつこNEWS」が状況をリアルに伝え、市民運動と議会は、にわかに密接なものになる。

愛媛県議会運営委員会のこの暴挙に、沈黙を続けていたマスメディアも、さすがに動き、議会の「異常」が浮き彫りになり、愛媛県議会の暴走は、四国の全県にたちまち伝わり、各地の市民運動が連帯の旗を振る。

県議会をたたかう悦子さんの働きは、たとえたった一人でも、肝の座った市民派が議員になることが、県民・市民にどれほど大きなプラスになるかを、まざまざと示し、四国全体に環境運動が燃えさかる要因になる。

その悦子さんが、今年は三期目へチャレンジする。悦子さんは、今度は厳しい戦いを強いられているが、さらに多くの市民派を呼び込む原動力にもなることだろう。愛媛のような超保守的な県でも、たった一人の反乱が、行政を変える力になったことは、四国だけでなく全国の活動家を勇気づけている。鹿児島市議会唯一の市民派・小川みさ子さんが、「あの鹿児島」を変えたように。

全国の皆さん、エールを送ってください。この改革の波を全国に広げましょう。（あごろ）斎藤千代

丸岡秀子 ひとすじの道



農村女性の解放なくして
女性の解放なし

「魂をもって魂に語りかけよ」と、
つねに弱者への励ましを忘れず、
人間尊重の精神と女性の自立を訴え
続けた真摯な生涯の軌跡。



ナレーション 榎山文枝

インタビュー

小林 節夫
岩崎 清吾
福沢 恵子
米田 佐代子
山本 茂雄
石井 龍一
渋谷 忠男
木村 康子
藤沢 セツ子
千野 喜和子



読むこと
書くこと
行うこと

企画・製作 「丸岡秀子ひとすじの道」
製作委員会
代表 杉田 栄蔵
事務局長 小百合
制作 長野映研
岡野 和夫
プロデューサー 石井 修
監督脚本 根本 銀二
撮影 佐田 久
照明 小石 清
編集 野口 熊一
音楽 小林 隆
演出 千島 清
出演 千島 清
布川 幸
子役 小林 藍
森泉 咲希
宮島 梨帆
斎藤 ちさと
ナレーター 榎山 文枝

いま

いちばん

言いたいこと



一〇一歳の母を看とつて

石崎 雅子

実母の介護のため、定年を待たずして退職して八年目に入る。

在宅介護を続けたものの、自分自身が心身共に疲れたあげく、体調を壊して、入所施設を利用せざるを得なくなった。退職した年の四月に介護保険法ができ、「在宅介護を充実する」ということだったが、認知症状があらわれ始めた母の介護には、そう役立つものではなかった。

希望した入所施設は、すでに一杯であり、比較的、待機する時間が短いという老人保健施設へやっとな入所ができたが、この施設は、病気などで入院すれば、即、退所の扱いとなる。病気が治っても、また空きを待つということ、母は、これまでも何回かこれを繰り返してきた。

昨年十月、肺炎のため入院し、この二月に退院が可能となつて、介護棟（正確には、介護療養型入所施設・介護保険が適用）に移ることになった。母と同様、手数のかかる入所者が多く、余裕なく動く職員は機械的である。介護者の資質も問われるべきだが、職員配置は基準が守られている。

昼食の際、自分では食事をとることのうまくできない母への介助の様子を見て、毎日、昼食の時間帯に面会にゆき、介助することにした。

昨年介護保険が改正され、相変わらず「施設」と「在宅」のアンバランスがありすぎると強調しつつ、在宅では軽度者に対するサービスの縮小が行われ、施設サービスでは利用額の減額が一律に行われて抑制されて来ている。

高齢になるほど介護負担も費用もかさむのは、当然のこと。適正なサービスの価格も設定されない

ままだに、一方では保険料を上げ、一方ではサービスの内容を落とす。

利用料の一割負担を下げたからといって、「安かろう、悪かろう」では困るのだが、このままでは状況は改善されることはないだろう。

自分の老後もそう遠くはない。介護の困難さ、大変さを身にしみて、味わっている者として、声をあげなければならないと、強く思っている。

(埼玉県春日部市)

内向きな論議、閉ざされた社会――

〈主張する日本〉であってほしい

阿部知子

一刻も早い退陣を

去る一月二五日から通常国会が始まった予算審議は、十分な審議もないまま三月二日夕刻、衆議院予算委員会で強行採決が行われ、翌未明には本会議で採決された。

昨年の暮れから相次ぐ安倍政権内部の不祥事は、年が明けるとともに閣僚の事務所経費問題へと広がり、さらに尾身財務大臣自身による予算獲得アドバイス事件まで発覚して、内閣は機能不全に陥っていたなかで、ただひたすら予算成立をあせった結果であろう。

柳沢厚労大臣の「女は産む機械」発言があり、国民からの批判は強まる一方で、世論調査では不支持が支持を上回った。一日いや一刻も早く、この内閣には退陣してもらわなくてはならない。私たち

の暮らしも、また未来も、到底この政権に任せておくことはできないのである。

上げ潮路線はウソ八百

小泉政権を引き継いだ安倍政権は、小泉政権の五年間で国民の働き方や暮らしがボロボロになってしまったことに全く目を向けず、「企業の利益が上がり、景気が良くなれば、国民の生活も良くなる」と主張する。

この一、二年、いざなぎ景気を超える好景気といわれながら、国民はその恩恵には浴することはない。勤労者の賃金は上がらず、働き方は不安定なままである。年金は減り、所得税・住民税は増税、医療・介護は負担増・給付減の繰り返しに、国民は、豊かさの実感など微塵もない。

どうすれば企業の富が国民の暮らしにも行きわたるのか、その処方箋を出さずに、今回もまた企業に対しての減税ばかりを優先する安倍内閣には何の説得力もない。

「主張する外交」は 内弁慶

北朝鮮をめぐる六か国協議では、米朝交渉と中国の取りまとめによって、北朝鮮の非核化がそろそろ合意され、第一段階としてIAEAの査察の受け入れと、その見返りに北朝鮮への重油の支援が取り決められた。この交渉に際して、日本政府は、果たして十分な外交力を発揮し得たのかどうか、たいへん疑問である。

六か国協議という枠組みは、将来の東アジア地域の安定や繁栄のためにも極めて重要な役割を持つものであり、日本が積極的に関与すべき戦略的課題である。しかし安倍政権にはそうした認識は乏し

く、逆に米国との協調関係を重視して、中国包囲網をつくることに重点を置いている。「主張する外交」とは、もっぱら拉致問題を指して使われ、朝鮮半島の非核化を目指す六か国協議の場でも、在日米軍再編に対しても「主張する」ことはほとんどない。まして今や世界的・人類的課題となっている地球温暖化では、EUや米国が京都議定書の次にくる枠組みに向けて動いているのに、日本は、いまだに「京都議定書の約束をどう実現するか」に足踏みしたままである。非核・平和外交も環境問題も、これでは世界をリードする立場にはなれない。

内なる安全保障——セーフティーネットもボロボロ

予算委員会を通じて明らかになったことは、労働分野だけではなく、年金・医療・介護など、私たちの暮らしの安心・安全は、どれひとつとして守られていない現状である。そればかりか生活保護世帯の急増は、その約半分が御高齢者、三分の一が病気や障害を理由とする方がたである。

日本の生活保護制度は、失業や生活破綻に際して、働く場に戻り普通に生活するためのセーフティーネットとは、ほど遠い。にもかかわらず、高齢者加算に加え母子世帯への加算まで取り上げという。そればかりか今でも短い失業保険給付なのに、国庫負担分を半減する安倍内閣の姿勢には、もはや困難をかかえた国民を守ろうという姿はない。

二世、三世ばかりの〈お友達内閣〉は、苦勞知らずの仲良しグループで、国民に説明責任を果たす意志はまったくなく、もはや無用の長物でしかない。

いま、まず地方選で勝利！ 七月の参議院選で過半数を勝ち取ること。

それは、決して不可能ではない。

（神奈川県 衆議院議員）

選挙でこそ日本を変えられる

桑原ちえ子

宝石も晴れ着も持たない私だけれど、宝物——選挙権があります。

だから私は選挙で地球を平和にしたい。

テレデ市（グランカナリア島）には日本の憲法前文と九条の碑がある。

ボリビアのモラレス大統領はボリビア憲法に戦争放棄条項を盛り込む。

ブラジル アルゼンチン ウルグアイ ボリビア チリ ペルー エクアドル ベネゼエラと、選

挙で政治を変えている。

選挙権のある人は「日本国憲法を活用できる人」を、選びましょう。

「クラスター爆弾の使用・生産を禁止する条約の（オスロ宣言）支持を見送った日本代表」は、憲法を知らないか、忘れた人だ。そのような人を選ぶ間違っただけはしたくない。

そう思っています。

（千葉県臼井市）

われらの教育基本法を生かし続ける

糸井 玲子

「教育基本法改正案」 強行採択

「教育基本法改正案」がついに強行採択された。二〇〇六年十二月一五日の国会は、政治史上に犯

罪的汚点を記した。この日本国が起こした戦争によって無惨に殺されたアジアの二〇〇万人の人びと、この国三一〇万人の人びとの遺言である憲法と一体の教育基本法が、再び「戦争する国作りの改憲」をねらう国会議員の多数によって踏みつぶされた。この事態を許すことはできない。

この当日も、国会前は「教育基本法改悪阻止！」を訴える教師・市民・宗教者が、道路から議員会館前庭まで溢れ、シュプレヒコールを繰り返した。

このヒューマン・チェーンは「教育基本法改正案」が衆議院において、政府与党だけで強行採決をした一月八日から続けられ、二〇〇〇人、五〇〇〇人を超える人びとが、ろうそくの灯を掲げ、横断幕やりボンを連ね、「子どもにとって教育基本法がいかに大切な」の現状を説き、「改悪反対」を国会に向かって叫んできた。

全国各地の日教組の幟が立ち、教師たちが「教え子を再び戦場に送るな」の敗戦後の標語を、今再び掲げなければならない夕闇の国会前で、ハンストを続けていた。共産党・社民党の国会議員が駆けつけ、国会報告と決意表明をするが、国民の声を聞いてほしい与党議員は来ない。彼らは国会議事堂と議員会館をつなぐ地下道を通り、地上の国民の中を歩かなかった。

教育基本法に違反する教育行政は、「戦争への道作り」

「われらは、さきに、日本国憲法を確定し……この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。」

一九四七年、教育基本法が公布・施行された。それまでの、「教育勅語に則り天皇と国のために命を捧げる人材としての教育」から解放され、「個人の尊重を重んじ、真理と平和を希求する人間とし

ての教育が生まれた。

子ども・国民・市民に教育権があるとする普遍的真理に立つ新しい夜明けだった。しかし、日本国は、一九五〇年の朝鮮戦争を機に再び戦争への道を進み始め、教育行政はその先導をしてきた。

五二年、愛国心教育をアメリカに約束。

五六年、文部大臣「教育基本法改正」発言。

六六年、中央教育審議会答申「期待される人間像」に愛国心・天皇への敬愛心を盛り込む。

七三年と七七年、首相が教育勅語を礼賛……。

文部省の学習指導要領は、法的拘束力をもって、五八年、「国旗掲揚、国歌斉唱が望ましい」とし、七七年、「君が代を国歌」と規定。八九年、「国旗掲揚、国歌斉唱」を職務命令義務化した。九九年の、国旗国歌法制定より一〇年前である。

われらの教育基本法は生き続ける

教育行政の右傾化に抗し、憲法・教育・歴史などにかかわる多くの学会の研究は深まり、輝かしい成果を積み上げてきた。

子どもの学習権を生かすための教師の教育の自由は学問の研究を進め、子どもの側に立ち、国の「不当な支配」と闘ってきた。「子どもの教育を中心に親と教師が聡明な協力をするPTA」（社会教育法）が、地域住民と共に教育運動にとりくむ。

一九七〇年、家永教科書裁判第二次訴訟東京地裁の「杉本判决」が出された。

「教育の責務は、父母を中心とした国民にあり、国家に与えられる機能は、国民の要請に応える条件整備にある。したがって、国家が教育の内容に介入することは、基本的に許されないと判示した。憲法・教育基本法に則り、思想・良心・心境・表現・教育の自由、子どもの学習権を格調高く謳う名判決全文は、魂の自由を求める私たちの行く手を照らし続けている。

「杉本判决」で、杉本裁判長と共に右陪席判事として判決文を書いた中平健吉氏（現在・弁護士）は、一九六七年、日本基督教団西片町教会に転会、鈴木正久牧師の「日本基督教団議長、戦争責任告白」に出会う。

深い感銘を受け「闘う協会」の使命を祈っていると、机上に置かれたのが、家永三郎氏の訴状であった。歴史に輝く「杉本判决」は、判例として生き続け、私たちに希望を与えている。同様に、われらの教育基本法も生き続けている。教育や生活の場で、われらの教育基本法を生かす自由と権利が、私たちにある。

そして心強くも、私たちには憲法と国際条約「子どもの権利条約」がある。国際条約は、憲法に次ぐ上位法だ。憲法と「子どもの権利条約」に大きく逆反する「改正教育基本法」を、撤回させる闘いへ進んで行こう。すべての子どもの平和を願い、われらの教育基本法の復活を祈る。

「私には夢がある」——キング牧師

（日本教育法学会会員、キリスト者政治連盟副委員長、キリスト者平和ネット事務局）

「福祉重視の首都行政の確立を！」

住みなれた東京で安心して老いるために 斎藤 一美

昨夜、(二〇〇七年三月一日夜) テレビをつけたら、NHKスペシャルが始まっていた。いきなり知人の飯田さんの貌がアップで映って驚いた。彼女は世田谷下馬にあるフレンズホームの施設長である。豊かな経験と実績を持ち、状況分析の鋭い方である。

テレビに映る彼女や介護士の話を総合すると、いま介護の現場は、深刻な人手不足で悩んでいる。

ちよっと景気が上向いたと思ったら、みな、介護職のように体力的に仕事ハードで責任の重い仕事から離れていつているようだ。数年前、景気低迷の時には、介護関係の就職斡旋の窓口は、資格をとった人が仕事を求めて大勢押しかけたらしいが、現在はその何分の一かに減って、施設が介護の人材を確保できなくなっている。一方ではすでに就職し現場で活動している人が、いろいろ理由をつけて辞めていく。最大の理由は、賃金が、労働や身につけた資格や技能に対して低すぎるということである。

辞めていく人が多く、新しく人材を確保できないと、現場は過重労働でこなさなければならぬ。

看護師・介護士・ヘルパーに、重い負担がかかってくる。健康を損ないかねない状況になる。追いつめられる介護者は、体力的にも精神的にもゆとりを失い、被介護へのやさしい心配りや細やかな観察、笑顔での語りかけなどができなくなる。画面では「これ以上、現状のままで仕事を続けると、お年寄りを虐待しそうだ」、「きつい言葉でしかお年寄りと応対できなくなってきた」など、本来は生き甲斐

のある、やりたい仕事だったものが、夢破れていく様が語られ、飯田さんは、ご自分の職場の職員の厳しい状況とともに「介護の現場の危機」と、とらえていらつしやった。

アジアから介護関係の人材を受け容れる内容も紹介されていたが、優秀な人材を外国から受け容れることも含めて、人の命を預け、専門の技術や知識を使って看護や介護にあたる専門職に、十分な生活の保障（賃金、様々な社会保険など）を約束できる制度が確立しなければ、東京の高齢者問題、ひいては全国の高齢者問題の基本は解決できないと思う。画面では、スーパーのパート募集の賃金が時給一〇〇〇円と出て、パートのヘルパー、介護職の時給がやはり一〇〇〇円となっていた。象徴的な数字であった。新しい都知事が、この現状をどう改善できるか。オリンピックにうつつをぬかしているうちに、「見る、看とられるの関係」が最悪になって、各施設、各高齢者家庭がどうなっているか想像力を働かせていただきたい。

（東京都世田谷区）

いま言っておきたいこと

山下 智恵子

戦争が愚かで悲惨なものであることを、ほとんどの人が知っている。日本が戦争をすることを、望んではないのも、周知のことであろう。

それにもかかわらず、今、教育も憲法も、戦争へ限りなく近づいてゆく方向へと歩み出している。恐ろしいことだ。その現実にもっと私たちは敏感に反応すべきではないのか。

名古屋で、今かかわっている運動を紹介するのは、そうした危惧を持つからである。

平成五（一九九三）年八月三日。弁護士であり私の大学時代からの友人である野間美喜子さんの発案で、「戦争メモリアルセンター」の建設を呼びかける会が開かれた。私も呼びかけ人の一人である。ここで採択したアピールを愛知県と名古屋市に手渡し、建設を要望した。

この段階では、愛知県の対応は、かなり良かった。翌九月の県議会で、鈴木礼治知事（当時）は、「終戦五十周年記念事業の一つとして」とりくみたいと言った。

だが、その後の県・市の動きは鈍くなってゆく。万国博覧会が、地道な案件をおしのけて、派手に大手を振って進んでゆく。

「……建設を呼びかける会」は、憲法学者や弁護士、画家、元役人、主婦、学生、詩人など、多彩なメンバーであった。しかし、年会費もわずかで、雑誌を刊行するたび、赤字は野間美喜子さんのポケットマネーから補填され、その累積に、胸痛む思いである。県と市だけに頼っている駄目だと、市民へ、戦争を風化させないためにと呼びかけ「戦争絵手紙展」を開催したり、戦没画学生の絵を集め展覧している「無言館」の窪島誠一郎氏を招いて講演会をしたりした。

県も市も、メモリアルセンター建設の私たちの請願を、全党一致で採択した。諮問委員会が作られ、やがて「戦争に関する資料館の調査検討委員会」が組織される。しかし、そこで動きは止まり、何の進展もない。

私たちは組織をNPO法人とした。万博で大にぎわいの愛知県。その平成十七（二〇〇五）年四月末から五月にかけて、名古屋市の「市民ギャラリー矢田」において、あえて、これまでに集めた資料

などを展示し、「戦争と平和の資料館モデル展」を開催した。反響は上々であった。展示に苦勞する会員を、新しく参加してくれた愛知県立芸大の美学生たちが、若い力とセンスで、助けてくれた。今までほとんど高齢者ばかりの運動であったのが、この展示によって、若い世代の参加を得られ、今に至っているのは、嬉しく貴重なことである。

さらに、新聞・テレビ（民放のみ。NHKは取材に來たのに何故か放映なし）の報道により、びっくりするようなことが起こった。

県下のひとり住まいの老婦人が、「そんなに苦勞しているのなら、私の持つ九十坪の土地を寄付しましょう」と申し出てくれたのだ。市内の土地。さらに建築費一億円も出しようとの有り難い志であった。若くして夫を亡くし、看護師、助産師として夜昼なく働いて貯めた淨財である。この事実を県市へ報告し、これを基礎として建設を進めるように提案。しかし、「土地が狭い、場所が不適当」という理由で、やはり動こうとはしない。

八十半ばを越えようという女性の尊い心を無にしないため、私たちは、もう民間で建てようと決意し、建設運営費三千万円の資金集め、設計、等々に走り回ることになる。私も真夏の街頭カンパに参加し、道ゆく人呼びかけた。ふだんは欠席の同窓会で、実情を訴え、カンパを募った。

かくて、平成十九（二〇〇七）年五月、「戦争と平和の資料館ピースあいち」は、三階建ての明るい姿で建ちあがった。この五月四日、オープニングを迎える。戦争の被害のみならず、加害の歴史も、今なお続く世界の戦火の事実も、より広く多くの人びとに伝えようと、最後の力をふりしほっている。

（名古屋市長 作家）

権利の上に眠るな

八代 紘子

今年は地方と国政（参議院）選挙が行われる。

私は選挙のたびに思うのは、投票率の低さと、都市部、そして、若い人たちの関心のなさである。敗戦後、天からふってきたような選挙権（特に女性）を得た。しかし、この権利のために、長い年月、多くの先人たちが、いかに犠牲を払い、闘ってきたのか。それを考えると、たとえ一票でも無駄にしてはならないと思う。女性の選挙権・被選挙権確立のために、その生涯を捧げられた市川房枝先生が、「権利の上に眠るな」と、口ぐせのように話しておられたことを忘れてはならない。

だから、時には義理と人情の一票であっても、私は決して棄権などしない。

（秋田県大館市）

「過労死は自己責任」発言に怒る

坂口 郁

過労死は自己責任と言う人よ汝が生業は手配師ならずや

人材派遣の美名のもとに労働者のピンハネする汝れは女手配師
おみならが発言権を世に得ればよき世になると我は思いしに

「過労死は自己責任」という発言に驚愕した。そしてその発言者が女性であることに、もっと衝撃

を受けた。

江戸時代には口入れ屋という商売があった。

昭和三〇年代頃までは派出婦紹介所があつて派出看護婦や派出家政婦などを斡旋していた。テレビドラマで見る「家政婦は見た」の〇〇家政婦紹介所などはその名残りであろう。仕事に就きたい人は斡旋料を払って仕事を紹介してもらつていたと思われるが、その賃金のいくばくかを紹介所に払つていたのだろうか。

その他の職業斡旋者には、手配師という人がいて、口入れ屋や派出婦紹介所以上に「あこぎ」であつた。手配師は労働者からその賃金の何割かをピンハネしていたからである。

人材派遣という名の会社を作っている人は、かつての手配師と同じ存在ではなからうか。仕事を斡旋して賃金のいくばくかをそこから上納させるという古い体質を踏襲していながら、あたかも現代的職業の如く思つてはいはないか。

自ら身を粉にして働くのではない人は、雇われている人の、痛みや苦しみは、わからないだろう。だからこそ「過労死は自己責任」などという言葉が安易に出て来るのであろう。

私は女性が参政権を得て社会に進出し、世の中に発言権を得、真の男女同権社会になったらどんなに社会がよくなるだろうかと思つて、仕事と育児の両立に奮闘すると同時に、女性が仕事を続けられる社会を願つて区立保育園や学童保育所設立に力を尽くしてきた。その私たちの血と涙の努力の結果が、人の痛みを思いやることのできない、弱者切り捨ての傲岸な発言をする女性を出現させ、社会にのさばらせることになったのでは、あまりにも悲しくて恐ろしい。

石原都知事の「生殖能力を失った女性は社会に有害」というババア発言、柳沢大臣の「女は産む機

械発言」と同じ、愚かな傲れる発言が、女性の口からでたのは、同性として悲しく恥ずかしい。それは男性本位社会の弱者切り捨ての考えと全くおなじではないか。

私の回りの男性たちが「過労死は自己責任」発言に怒るのは当然としても、「だから女は愚かだ」と言われるのは、私は女性として身を切られるように恥ずかしく辛い。戦前と同じような男性本位社会の出世主義や肩書指向の女性には要らない。

人の痛みを思いやり、それを取り除くべく努力することのできる女性の社会進出を願ってやまない。

(東京都世田谷区)

「美しい国」ってなんですか

岡田 黎子

「過去の残虐な侵略の実態はなかったことにしてしまい、太平洋戦争はアジアの平和の為に正しかったと主張し、過去の戦争もこれからの戦争も肯定して、かつて、お国の為に死んでいった特攻隊の愛国心を教育の中心に据え、〈戦争をする国こそ美しい国〉……ということですか。それ、美しい国の反対の国のことではないですか。

そこには不戦の誓いも、反省のカケラさえも、ありません。

私は、太平洋戦争中は、毒ガス島へ学徒動員されて、加害に荷担してしまい、戦後、間もなく、被爆後のヒロシマへ。中三で、救護活動に動員されて、被爆者となりました。戦争の被害と加害の両面

体験者として生きていますが、ヒロシマでの衝撃、惨状と恐怖とは、生涯、ぬぐい去ることのできないものとなっております。

戦争は国家によって正当化された残虐極まりない人殺しで、人間として決してやってはならないことですが、個人としての平和の願いとは別に、戦争は本能ではないかと思えます。だから何かの行動を起こさなければ戦争は起きてしまい、いつもどこかで戦争が起きて続いています。

為政者、指導者が、高い品性と、知性・見識をそなえ、戦争の阿鼻叫喚を自らの受難として受けとめることのできる人間性豊かな人物でなくては、平和は築けません。私たちは、現在、為政者を正さなくてはならない状態にあります。

《美しい国》とは、戦争責任を日本自ら、きつちりと追求し、受け止めて、迷惑をかけた国や人びとの心情や実態を真摯に受けとめ、充分な賠償や保障を行い、歴史を都合のよいようにねじ曲げるようなことは、犯罪として制裁し、絶対に戦争をしない国、九条の精神を世の憲法にしようと努力をする国のことだと私は思います。

日本がこれまで平和を保ってきたのは「日米安保」があつたからではなく、「日米安保があつたにもかかわらず平和が保たれたのは、九条の精神を大切に生かそうとした平和運動があつたからだ」と思います。

いま、日本の政府は、憲法改悪へ向けて、着々と包囲網をかためてきました。私は怒りとあせりに、いてもたってもいられません。私たち、志を同じくする民衆は、輪を広げ、国内外共に連帯して、憲法改悪阻止をしなければなりません。そして、平和で幸福な美しい人類社会を築かなければなりません。私もホソボソながら頑張っています。

(広島県三原市)

「冷めたい頭を持ちたい」

金澤 泉

私も「憲法九条は変えたくない」と思っている者のひとりです。

でも、それを言うと、必ず出て来るのが、「北朝鮮が核をもっているなら、軍隊を持たないわけにはいかない」という考えです。

北朝鮮を、日本が武装するためのかつこうの材料にする前に、「アメリカの核の傘に依存しつづける一方で、他国の核を批判できるのか」を問わなければならないでしょう。

「誰の核もよくない」——この言葉を掲げながら、NPO法人ピースデポの梅林宏道さんたちが、「スリー・プラス・スリー構想」を提唱しています。「武力によらない安全保障がある」ということを示す、具体的な方策です。

詳しくは、梅林さんの著作、『アジア米軍と新ガイドライン』（岩波ブックレット）や『在日米軍』（岩波新書）、NPO法人ピースデポ発行『核兵器・核実験モニター』に書かれています。

九条を守ることは、「自分のところに富を集中させたい人」との戦いですね。

憲法九条を変えないためには、具体的な「言葉」を持たなければ戦えないことを感じています。共に学んでいきましょう。

（北海道岩見沢市）

選挙にのぞむこと

佐藤 公

今の体制に有利な、現在の選挙区制度では、何度選挙をしても、現在の体制は、変わらないでしょう。その絶望感が、どの選挙区でも、一〇〇%にはほど遠い投票率になっているのだと思います。正しく民意を反映させる完全比例制に基づく議席配分にするべく、なんとかしたいものです。

私の年収は、やむなく選択した国民年金早期受給を含め一五四万円にしかありません。

各種税金一四・五万円、公共料金二五万円、生命保険三〇万円（死亡保険）、慶弔費一八万円、農業経費四八万円、新聞代ほか八万円、食費二〇万円、借入金返済二二万円です。これが収支です。

衣料、医療、床屋代はゼロ。文庫本四冊のみ。今どき、テレビ、ビデオ、パソコン、ケイタイもなく、情報格差を実感しています。

これらの最低限の情報関連予算が、自分のどこからも出ない超貧困生活を送らざるを得ない状態に低迷中です。

先年の政策に見た「すべての国民に最低年金月額五万円保障」。
その上に各人の分が上乗せされる制度を熱望します。

（岩手県盛岡市）

「あごろ」

堀尾 陽子

府中市の滝島典子さんから、月刊『あごろ』が届いた。

「あごろ」は「人と人が出会うひろばで、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯」と記されている。今回贈っていただいた三〇九号『開戦六五年に想う』には、「日記に見る戦時下の女学生」と題して、戦時中の滝島典子さんの女学校時代の日記を通しての戦争体験が語られている。

「あの時代を振り返ると、軍国少女に仕立て上げられたことが、なんとも口惜しい。でも、だからこそ、私たちの世代は軍国化の動きに敏感である。いま進められようとしている憲法改悪は、あの戦争で散った二十万と伝えられる人びとの死を無にするもの。《決して戦争をしない日本》であり続けるために、私は、私たちが体験した戦争のむなしさ。悲惨さを語り継ぎ、平和を守るために死力を尽くすことを、改めて誓いたい。」と、滝島さんは最後に書き添えられている。そして、今回の『あごろ』に掲載されている、島津ミヨさんの「府中のさんちゃん」を、滝島さんは朗読会で朗読されたそうである。

「府中のさんちゃん」は神社に寝泊まりしている乞食の青年で、彼には不思議な行動がひとつあったという。歩くのを突然に止め、直立不動の姿勢で敬礼して、大声で「突撃！」と号令をかけ、それからその手を太ももにパシッと音を立てて下ろし、もとの無表情に変わり、はやっと歩き始めるのだそうだ。

島津ミヨさんのお母さんは、「復員したけれど家も思い出せないほど苦労したんだろうよ。親が待っているだろうにね」と言つて、還らぬ息子とダブらせ、握り飯を渡していたとのこと。

私は二ページのその短い文章を読んで、「府中のさんちゃん」の光景が目には浮かび、涙が溢れ出てしまった。戦争で、「府中のさんちゃん」がどんなに辛い体験をされたか、誰にでも簡単に想像がつくことであろう。

『あごろ』のページをめくると、「戦争体験を知らない世代に伝えることが私の人生最後の役目」として、戦争体験者が声を大にして、戦争の悲惨さを私たちに語りかけている。

この地球上に人間として生まれてこれたことの幸せ、戦争のない今の日本で生活していることの幸せ、それは何億分の一の確立の幸せであろう。私たちはその幸せが当たり前のように、平和ボケして生活している。『あごろ』の叫びに耳を傾け、物言えなかった「府中のさんちゃん」に代わって、戦争体験者の言葉を語り伝えていくことは、私たちの義務であろう。

「ストーンケトルの皆さんで《月光の夏》の朗読劇をなさっては」

滝島さんのこの一言からスタートした私たちの朗読劇《月光の夏》は、今年の夏で四回目の公演を迎えることになっている。セリフを忘れないためにも、私は毎日お風呂に入っては吉岡公子先生役を演じており、思い入れが強くなればなるほど胸が詰まり、声が出なくなってしまう。

「府中のさんちゃん」の代弁者として、しっかり語り伝えていかなくては。

(東京都豊島区)

弟に語る 独り語り

増村 秀一

拝啓 健 殿

すさまじい時代になりました。

あれよあれよという間に、教育基本法が改悪され、「次は、憲法」と広言してはばからぬ厚かましさに、耳を疑い、目を覆いたくなるようなこの頃です。

これをこそ、「破廉恥」と言わずして、何と言おう。

相も変らぬ日常生活を送りながらも、内心の奥深くにつき刺さった目に見えぬ棘が、日に幾度となく頭をもたげ、かと云って何ができる訳でもなく、ただうろろうろつき回っているばかりです。

この居心地の悪さ、もはや、美しいとも何とも思えなくなったこの国を、後ろ足でパッパと砂蹴り返し、どこぞに飛び出してゆけまいか……。

(1)

私は、昭和一七年六月一五日生まれ。かの「ミッドウェー海戦」の一〇日後のことです。太平洋戦争の、まさに岐路にさしかかった頃ですが、当時はもちろん、そんなことは知る由もなく、母の実家のある東北の片田舎に住んでいましたから、戦争の爪跡さえ知らずに育ちました。

父が復員して、谷浜に移住し、そこで道雄が生まれました。

昭和二十四年、谷浜小学校入学。

今にして思えば、戦後のどさくさの、どさくさなりの自由な雰囲気環境で育ちました。

戦後デモクラシイの伸びやかさは、その後糸魚川へ転校しても続きました。その当時のクラス写真を見ると、ほとんどがワラ草履か、よくて下駄履きでしたが、一様に貧しかったから、不自由とは思いませんでした。

昭和二十五年六月、朝鮮戦争 勃発。

その頃の新聞には、連日のように、朝鮮半島をめぐる攻防戦が、地図入りで報道されました。北緯三八度線を挟んで、北の共産軍は「悪」で、南の国連軍（米軍）は「正義」、と単純に信じて疑いませんでした。

それは多分に、マッカーサーの影響があつたのではないか、と思われます。

ちょうどその頃、「警察予備隊」が、発足しました。七万五千人。

米軍のポンコツ「フリゲート艦」や、「特車」（戦車）を貸与されて、まるで「おもちゃの兵隊」でした。

それは、やがて、「保安隊」から「自衛隊」へと名を変えて、本格的な軍隊へと膨れ上がってゆくことになります。

聡雄や健坊が生れたのは、その頃のことです。

戦後の体制が、朝鮮戦争を契機に右旋回を始め、新たな東西冷戦構造に組み込まれてゆく過程でもありました。皮肉なことに、我が国はこの時の「朝鮮特需」によって、敗戦の荒廃から立ちあがることができました。日本の資本家たちは、この戦争を「天佑神助」（神のたすけ）と喜んだといえます。我が国の再軍備は、憲法史上、最初にして最大の試練だったといえます。爾来、平和憲法のなしくずし的な空洞化が続くことになります。

(2)

昭和三十七年、大学入学。

奨学生ナンバー「三七カ一一二一九」

月々三〇〇〇円の奨学金を受け取るのに、四年間記入しているうちに、諳んじてしまったナンバーです。

学生寮の食費が三九〇〇円。（一日一三〇円） それでは足りないから、深夜のインスタント・ラーメンが大はやりだった。

紀尾井町のタヌキそばが五〇円。有楽町の焼肉屋の昼の定食、コムタン・スープが一五〇円。都電往復一五円で、新宿の日活名画座が八〇円だった。つまり、百円あれば、映画が観れた。

スクリーンの横で、ドアがボタンボタン開閉するたびに、トイレの臭いが漂ってくる「シネマ新宿」。学部つまらない授業よりか、白黒のリバイバル・フィルムの方が、何ほどかためになった。しかも、あの頃は、家の経済が斜陽だったから、年じゅうアルバイト探しをしていた。

「銀座ネクタイ」という、安物のネクタイ売りをした。一日三五〇円。ネクタイ一本の値段だから、よく覚えていた。

赤坂のレストランの皿洗い、時給六〇円。大学構内の工事現場でコンクリート流しをして、時給八〇円。夜の十時頃、仕事が終わると、飯場で一杯八〇円のウドンを啜って、星空の下を帰ってくる。門限十一時。物価は安かったが、入ってくるほうも不安定で少なかったから、年中、蒼い顔をしていた。割のよい、家庭教師のような口は、一年の間は、なぜか紹介して貰えなかった。

金が無くなると、机の引き出しを逆さにして、五円でパンの耳をひと袋。十円で牛乳一本。

六〇年安保は、地方の高校だったから、ほとんど「政治的アパシー」つまりは無知蒙昧ということ。だから上京後のバイト探しは、世間を相手の初めての「経済闘争」だったと云えよう。

大学の講義は、概してつまらなかった。一般教養のキリスト教「倫理学」や「哲学」。どうも、しっくりこなかった。

それに反して、「憲法」(二単位)との出会いは、衝撃的でありました。

憲法九条と自衛隊との関係、それはまさしく、理想と現実との矛盾そのものでした。

しかし、軍隊の保持を正当化しようとするいかなることじつけの論理よりも、憲法前文に謳われた「恒久平和主義」の理念のほうが、はるかにはるかに、崇高であると思われたものです。

あの当時、よもや憲法が変えられる日が来ようなどとは、想像だにできませんでした。

去年の夏、貴殿に借りた「ボーツマスの旗」(新潮文庫)が面白かったので、吉村昭の歴史小説を、九冊ばかり読みました。

その中の「桜田門外の変」(上・下)

一八六〇年、(旧暦三月三日)

早朝からの激しい降雪について、水戸の浪士たちは、井伊大老の駕籠を襲う。やがて、大老の首級が、薩摩藩士、有村治左衛門の刀の先に掲げられた。

しかし、その有村もまた、彦根藩士の一撃に深傷を負い、自刃して間もなく絶命する。凄まじい、血で血を洗う殺し合いである。

万延元年のテロリストたち、水戸脱藩士一七名、薩摩藩士一名、計一八名。

(討死一、自刃四、深傷による死亡三、死罪七、のち自刃一、逃亡二)

捕えられた後の死罪とは、「斬首」である。

いかに、封建時代の風習とは云え、現代の私達たち前のできごとである。

我われは、かくも残酷非道な、野蛮な民族の血に生まれ落ちたのだろうか。

しかも、考えようによっては、かくも残酷な「武士道精神」こそが、この後、半世紀も経たぬ内に、帝国陸軍のサーベルの切っ先となってアジアの民族にかってゆくことになったのではあるまいか。

朝鮮で、中国で、フィリピンで、インドネシアで、つまり、東アジアの至る所で、我が国の軍隊は、無数の、全く罪のない人々をも、斬殺していったに、違いないのです。

(4)

明治維新は、「桜田門外の変」より、わずか八年後のことでありました。

当時の指導者たちは、近代化のモデルを求めて、「岩倉具視使節団」を送り出しました。(一八七一・明治四年) 総勢四八名。

一行は、アメリカを経てヨーロッパに渡り、およそ二年もかけて各国の政情を視察しました。そして、当時「普仏戦争」でフランスに勝利し、「旭日昇天の勢」であったプロシアに取りついたので、取りついた枝が、いささか時代遅れであったようです。ともかく、鉄血総裁ビスマルクを、明治天皇に重ね合わせました。そして立憲君主制を装った絶対主義と、我が国伝統の神話とをドッキングさせて、「神格化された天皇制」をでっち上げました。(一八八九)

そして、欧米列強(露・英・仏・独・米・伊・奥)の帝国主義に乗り遅れまいと、「富国強兵」に励んだのです。やがて、日清・日露の戦役を足がかりにして、アジアに侵略してゆくことになります。結果的には、朝鮮・中国ばかりでなく、東アジアのほとんどの諸民族を戦渦に巻き込み、塗炭の苦しみを与えることになりました。

「二億玉碎」から、一転して「二億総懺悔」へ。

しかしながら、そうした華麗なレトリックとは裏腹に、一体全体、個々の国民が、どれほど深刻に「戦争責任」について反省したと言えるのでしょうか。まして、民族としての「加害責任」においておや。我が国の、政治的指導者のレベルにおいても、彼のドイツに見られる姿勢と較べて、いかにも誠意に欠けるように思えてならないのです。

政治家の歴史観も含めて、我が国民の民族としての認識の甘さが、今日の政治的状況の退廃を招いているのではないでしょうか？

(半植民地的、アメリカ追随一辺倒)

(5)

二〇〇七年という、未だに馴染めない、二十一世紀の初頭にあつて、私は、私自身の半世紀を超える「我が人生」に思いを至す時間が多くなりました。過ぎてみれば、一夜の夢の如く、ただし、ひとつのイメージをたぐり寄せれば、次から次へと尽きることがありません。

そんなわけで私の貴重な想い出の数かずは、遠ざかりつつある二十世紀の後半、「幻の昭和期」の中にあるのです。

そうして、あと五年生きるか一〇年生きるか、残念なことには、すべてが未完のまま、この世を去らねばならぬということです。

この世に、ユートピアが無いように、理想郷は理想のままに抱き続けられましょう。

そして、もしかして、人類の智慧というものが減りぬ限りは、多少の紆余曲折はあっても、多くの人びとにとって好ましい方向に向かって進むだろうということです。

そのことを願いながら、残された日々を、内省的に過ごしてゆきたいと思っております。

ご自愛の程を！

二〇〇七年 二月末日

秀一

(新潟県 画家)

日本によるアジア侵略の社会構造的な原因を追究する。
そして今、再び侵略戦争が。

ビデオ 戦争案内 (60分)

日本は明治以来、資本主義社会として「経済発展」の道を突き進んでいる。

欧米資本主義国に見習って先ず軍事力を増強し、アジア諸国に侵略、資源を略奪、労働者を酷使、市場を独占して発展してきた。その行き着く先がアジア太平洋戦争敗戦だった。それでも日本の大資本は肥え太ったまま、その体制は温存された。

戦後アメリカの庇護の下、再びアジアへの侵略を始めた。とくに85年プラザ合意以後、怒濤のごとくアジアへ投資、開発を行って、それが今、平和憲法を投げ捨てて武力侵略の方向へ進み始めざるを得ない原因になっている。

私たちは、今こそ踏み付けにされ続けてきたアジアの民衆と腕を組んで、真のアジアの平和のため、闘いに立ち上がる時ではないでしょうか。この20年間アジアで現地取材を続け、仲間たちと学習会、資料集めをして得た真実をビデオにしました。教材としてもお使い下さい。豊富な資料もビデオに付けて販売致します。

企画・製作 映像文化協会

泥船

堀場清子

二〇〇六年四月一五日早朝
次期首相と目されていた官房長官が
こっそり靖国神社に参拝した

八月はじめ

自分からそれをリークし
記者団に事実を聞かれていった

「参拝するかしないか

したかしないか

あるいはいつ行くか行かないか

申しあげるつもりはない」

妄言が「答弁」として通用する 不思議の国
明々白々の真実を 決り出せない 記者団の国
国民の耳目に代われない国

もどかしい国

デイスカッションの習いが無い国

そこに含まれるべき対等性に欠けた国

どちらを向いても 上下関係ばかりの国

首相会見ともなれば

記者団の間から 追従笑いさえ聞こえる 哀しい国

かの官房長官は

九月七日午前の記者会見で

先の大戦をいかに評価するかと問われ

自己の歴史認識は語らず

「評価は歴史家にまかせるべきだ」と答えた

それでいて

九月二六日の首相就任以降は

思いのほかの豹変をしてみせた

まずは あつさり踏襲

植民地支配と侵略を認め

アジア諸国に謝罪した村山首相談話を



ついでは すんなり容認

従軍慰安婦問題で

軍の強制を明確にした河野官房長官談話を

朝日新聞はそれを「半化け」と評したが

化けたものなら

なりゆき次第で正体を現すだろう

正しい歴史認識なくして

どうして政治家たりえよう

ましてや宰相たりえよう

どうして正しい政策を建てられよう

かりにも国民の命運を託されよう

否む術なく

泥舟に乗る 一億三千万人

かわいそうに われもひと

早稲田大学リーガルクリニック主催 「ジェンダー法」無料法律相談のご案内

早稲田大学大学院法務研究科（法律大学院）では、弁護士資格をもった教員が学生とともに実際の法律実務を取り扱いながら、学生の教育にあたる「臨床法学教育（ジェンダー法）」という科目を開講しました。この教育活動の一環として、「弁護士法人早稲田大学リーガルクリニック」において、無料法律相談を実施いたします。相談にあたるのは、法務研究科教員の弁護士と学生です。

具体的には、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス（家庭内暴力）、ストーカー・痴漢などの性暴力被害など、職場や家族、地域社会の中でジェンダー（性差）から生じる紛争についてご相談に応じます。ご相談者は女性・男性を問いません。

●日 時 2007年4月12日（木）午後6時15分～7時45分

●場 所 新宿区西早稲田1丁目21番2号 西早稲田南ウイング1階
弁護士法人 早稲田大学リーガルクリニック
（地下鉄東西線早稲田駅徒歩10分）
予約をされた方に詳しい地図をお送りします。

●相談担当 早稲田大学大学院法務研究科の教員（弁護士）及び学生
林 陽子（弁護士、早稲田大学院法務研究科客員教授）
浅倉むつ子（早稲田大学院法務研究科教授）

※法律相談の結果、文書作成、交渉、訴訟等の対応が必要な場合、一定要件を審査のうえ、受任してその後の対応を行なうことができます。

●要 予 約 相談希望の方は、
電話（03-5272-8156）：月～金10時～17時
または E-mail（Legal-Clinic@list.waseda.jp）で、事前にご予約下さい。

なお、本相談の性質上、相談をお受けできるかどうかは、学生の教育目的に適うかの観点から判断させていただきます。ご相談をお受けできない場合がありますが、その節はご容赦下さい。

あいらのあいらのあいらのあいらのあいらのあいらのあいらのあいら

【008】岡谷裁判等へのあゆみ

岡谷裁判の記事、しっかり読みました。まだまだ泣き寝入りの女性が大多数の中、がんばってくれて、勇気もらいました。ありがとうございます。

（奈良 井上日磨美）

*

座談会をまず読ませていただき光岡美代子さん、藤澤真砂子さん、お二人の原告の強い信念と粘り強い行動に感激。弁護士原山恵子さん、会の世話人加藤さん、海道さん、福本さんを交えた——年間のあゆみ——はわかりやすく心に伝わり、判事を父親に持たれた斎藤さんの司会・進行はさすがと感じ入りました。三船照子さん、長時間に渡る記録、ごくろうさまでした。

この裁判の突破口をつくられた安川名古屋大学名誉教授の、岡谷鋼機社長あてのお手紙、いいですね。

強力な四人の弁護士団（坂本福子さん、西尾弘美さん）のすばらしいこと。編集後記を寄せておられる主任弁護士・渥美玲子さんの文を読み、お人柄が身にしました。二〇〇六年のあごろの最終号にふさわしい三〇八号をありがとうございました。

私たち府中女性史編集実行委員は、府中在住原告も含めた中国残留婦人裁判の判決（高裁）一月二五日を控えて緊張しています。（東京 滝島典子）

【009】「開戦65年に想う」

有難うございました。早速バラバラとめくったら、一番先に眼に止まった

のが「日記に見る戦時下の女学生」でした。六五年経って、今日の朝刊の一面トップ記事が、「支那事変やりたくなかった」「昭和天皇戦時の肉声」「元侍従の日記」でした。「畏くも宣戦の大詔。私たちの胸は高鳴った」と書いた少女の日記と表裏を成すこの日記！万感コモゴモ。やたらに腹が立ちます。今夜は東京大空襲の晩です。今から数時間後に始まる阿鼻叫喚。真つ赤な東の空に立ちつくしたことを忘れません。

*

（東京 小谷稔子）

「あごろ」開戦六五周年記念誌、真つ先に滝島さんのページを拝見しました。十二・十三歳当時の愛国少女、軍国少女だった滝島さんの日記を追いながら、オーバーラップさせ、純粋だった

た滝島さんの面影をお偲びしました。

とても充実した内容なので、滝島さんの文を再読し、三読するとともに、他の方の文もぜひじっくり読ませて頂きたいと思います。戦争体験を無駄にせず、秀れたお仲間と平和問題に取り組んでおられる先輩を頼もしく、拍手を送っています。(東京 北澤寿恵子)

*

みなさま力のこもった御作ばかりでよい号になり、私も嬉しく存じます。

できましたらあと五部お分け頂けませんかでしょうか。多くの方に読んでほしいと思いますので。(千葉 堀場清子)

*

「開戦65年特集号」を八〇代の伯父、伯母に贈呈しましたら、「自分も投稿したかった」と電話がありました。

(東京 林 陽子)

*

雪の降らない富山の冬を体験するなんて、富山の田舎に生まれ育って今日に至るまで、かつて無かったような気が致します。除雪作業が要らないなんて、有難き限りです。

さて、「あごろ」三〇九号「開戦65年に想う」それぞれの方がたの御文章、身に沁みて読ませて頂きました。実は私も昭和六年生まれ、戦争と共に育った人間でございます。各文章はそのまま私の思いと重なり、よくぞこのような特集を編んで下さったものよ、と、胸いっぱい感謝であふれております。私自身は田舎の村で直接空襲にも会っていませんけれど、叔母一家は焼け出され、叔父は戦死し、父親は中国戦に征って何年も帰ってきませんでしたし、戦争は私の体の中でしっかりと根付いたまま今日に至っております。

ところで、これまで疑問に思っていたことが解けました。それは、斎藤さ

んのことです。お目にかかったのは一度きりですが、とてもお身体が強健とお見受けできなかったのに、「あごろ」誌に接している限り、強烈な信念をお持ちのよう。これはいったいどこから発しておられるのだろう、と思つたのです。それが今号の「私にとつての十二月八日」を読ませて頂き、ハーツと思い至りました。わかつたーです。今頃何を……とお思いでしょうが、私には真実真底、斎藤さんに接したというか、理解できたのでございます。

政治のことやら何やら、思うことはいっぱいですが、いつもゴマメの歯きりでしかないのですが、(「あごろ」)にだけはがんばって欲しいものと心より期待しております。三〇九号を、思いを共にする友人たちに差し上げようと思います。高校の教師をしております

パリ発、ポーランドの風！

～ショパンを歌う～

ポーランドに生まれ、父の祖国フランスで生涯を終えたショパン。自身のすべてをピアノ音楽に注ぎ込んだかのような人生であったが、ショパンは同郷人の詩による19の歌曲を残していた。ショパンの秘められた世界を探ります。

■ バッハ バルティータ第1番 BWV 825

■ ショパン 歌曲 Op.74 (ポーランド語)

乙女の願い

二人の死

メロディ

枯葉は舞い落ちる 他

■ ボーリーヌ・ヴィアルドー編曲 (フランス語)

マズルカ第1番 Op.6-1

■ ショパン バラード第3番 Op.47

幻想ポロネーズ Op.61

Akiko Toda

■ ソプラノ：戸田 昭子

Misato Ishiwata

■ ピアノ：石渡 瑞都

愛知県立芸術大学音楽学部作曲科卒業。

作曲を寺井尚行、兼田敏の各氏に、ピアノを河原元世、土屋美享子女士に師事。

弦楽作品や日本歌曲の作曲を手がけ、第12回新・波の会日本歌曲コンクール作曲部門入選。2004年6月には、女声合唱組曲「木のように」(木下重子作詩)を瀬川千里指揮、ヴォーチェ・ミレーニコーラスおひめさま、自身のピアノ演奏にて発表し好評を得た。また、声楽家やヴァイオリン、ヴィオラ、フルートなどの器楽奏者との共演を行っている。社団法人日本歌曲振興会(旧新・波の会)会員。2000年より毎夏、八ヶ岳サマーコースおよびピアニストのための室内楽セミナーにて室内楽の研鑽を積む。

めぐろパーシモン小ホール

東京都目黒区八雲 1-1-1

TEL 03(5701)2924

●東急東横線

都立大学駅徒歩7分

●バス

〔流 34〕 渋谷駅～東京医療センター

〔黒 07〕 目黒駅～弦巻営業所

〔多摩 01〕 多摩川駅～東京医療センター

〔都立 01〕 都立大学駅北口～成城学園前駅

「めぐろ区民キャンパス」下車すぐ

※駐車場の台数が非常に少ないため、公共交通機関をご利用ください。

2007 4/19 (木)

19:00 開演

めぐろパーシモン小ホール

東急東横線 都立大学駅下車徒歩7分

全自由席 ¥2,500

主催：エスバス・ソノール 04-7133-5135

後援：愛知県立芸術大学音楽学部同窓会

愛知県立芸術大学音楽学部同窓会東日本支部

●名古屋公演(中村文化小劇場 4/17)

●講習会・フランス語作品を歌う(名古屋 スタジオ☆ 4/13～4/15)

詳細：雑歌屋 Paris <http://zakkayamusique.hp.infoseek.co.jp/>

チケットのお申込み・お問合せ

エスバス・ソノール tel.fax / 04-7133-5135 mail : misato_chopin@yahoo.co.jp

※託児サービス(お子様お一人につき¥1,000)をご用意しています。詳細は上記までご連絡下さい。

息子にも是非読ませようと思っております。本当に有難うございました。

(富山 高木栄子)

*

読甲斐のある記事、心から尊敬を覚えます。

(東京 桑田喜美子)

「バリの娘が東京で公演をします」

パリでソプラノ歌手として活躍している娘の昭子が、東京と名古屋でショパンを歌います。名古屋は四月十七日十九時・中村文化小劇場、東京は四月十九日十九時、めぐろパーシモンホール(東横線都立大学駅七分)です。どうぞよろしく願います。

(名古屋 戸田順子)

「暮らしている中から」

実家の母の死、義母の介護、いろいろありましたが、今年はいいい年であり

ますように願っています。スタッフの方がたも頑張つて下さいね。

(兵庫 濱名育代)

*

いつも「あごろ」送付頂きまして、ありがとうございます。皆様のご努力に、いつも感謝しています。

この春の選挙に追われ、バタバタとしています。

(東京 大河巳渡子)

*

大河巳渡子さんは、東京都調布市から、四期目の市議選にお立ちになりますが、この310号の特集ページでは、ご紹介できませんでした。

一九九五年、市川房枝政治参画センターでの学習を生かして、クリーン選挙でご当選、九九年、二〇〇三年と三選され、今度は四期目のご挑戦です。

長野県小海町生まれ。「筋を通す信州人の血」を誇りにしておられる一徹

な方。十二年間、「一人会派(元気派市民の会)」を名乗り続けていらつしやる、筋金入りのリベラルな方です。

厳しい借金財政の調布市。「まず財政再建を」と、耳ざわりのよい個別の要望に対応する政策には加担せず、借金をふやさない努力・工夫をしながら、市政の体質改善を計っておられます。

「ばらまき政策」に、時には一人でも抵抗する姿勢に、地元では「みとこさん」と呼ばれてファンも多い大河さん。今度も、「当確」の予想ですが、ぜひご支援をお願いします。(事務局一同)

「想(こころ)」

状況は悪すぎますが、あきらめずに頑張ります。 (山梨 海沼春彦)

*

「均等法」について、問題になる数年以上も前から、問題点をキツチリ指

摘されていたのは、「あごろ」だった
……。そうです。

「靖国参拝」は、「次の戦争のための
装置」と思われてなりません。

(福岡 小島サカエ)

*

事務局のみなさま、頑張っておられ
るお姿を拝見し、ただひたすら敬服し
ております。スゴイです。でも無理は
禁物です。ゆったりペースで仕事をし
てください。

(千葉 綿津靖子)

〔編集後記〕

◆選挙の結果がでた時いつも思うので
すが、国民は生活に不安がないのかと。
これでいいのかと……。ワーキングプ
ア、格差社会、介護・年金問題など不
安だらけ。こういう政治でいいの？
このままでは、老後の不安、我が子の
将来の不安……。考えると病気になる

えっ、病気になるっても病院に行けま
せん。どうすればいいの。
選挙で信頼できる人を選べば、いい
んだ。(G)

◆309号に押されてスタートが遅く
なったため、候補者の皆様には、ご迷
惑をおかけしました。申しわけありま
せん。四月八日が投票日の方も多く、
とにかく間に合わせようと、半徹夜の
日が続きました。

選挙のお役に立ちたいと、あせりま
したが、山のような資料の取捨選択、
必ずしも最適解ではなかったのでは
……。と、申しわけなく思っています。

でも、何度も何度も資料を読み返し
たお陰で、どの方とも、何十年來の友
人のような気持ちになりました。

こんなステキな方がたがお立ちにな
る県や市の、県民・市民は、おしあわ

せですね。ご当選を心こめてお祈りし
ております。(小)

◆石原知事のババア発言、現職大臣の「女
は産む機械」その怒りを現実の改革に
変えるのが選挙。東京では、ついに「女
勝手連」が繰り出し、日一日と爆発的
な流れになっています。この流れは多
分、全国的な大きなうねりになってい
くでしょう。次は、この選挙の総括号
を出します。全員当選を信じます。

政府の強引さに、一日一日、クライ
になっていく日本。でも、選挙で、ほ
んとうに信頼できる方、日本を、地域
を守り、変えて行く方を送り出し、こ
の暗いムードを一掃しましょう。(千)

（三〇〇号の編集協力者）

萩原有希／小野良子／小俣光子

黒澤照代／郷原さつき／古賀節子

斎藤千代／斎藤 涼

へあごらは、人と人が出会うひろば――

思い悩んだとき、もっと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……
心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄
まで、いつのまにか広がりました。

雑誌「へあごら」を軸に、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯。
どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――
「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

会費は月刊「へあごら」の誌代込みで月額七〇〇円(在学中の方は三五〇円)。
一年分(八四〇〇円、学生の方は四二〇〇円)前払いが原則ですが、半年
分でも二か月分でもご相談に応じます。入会金は二〇〇〇円(学生の方
は無料)。ハガキ・FAX・メール・電話でお申し込みください。

へBOCへの登録もどうぞ……

一九六〇年に生まれたへBOCバンク・オブ・クリエイティビティは、
「創造力の銀行」。あなたの創造力や特技、希望の報酬をご登録ください。
各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな
「創造力」でも歓迎！ ただし、半年以上へあごらへ会員の方に限ります。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル

連絡先

電話 03・3354・3941 代表 FAX 03・3354・9014

Eメール XLV05467@nifty.com #たてboc@mb.intoweb.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agora1/>

あごら 310号(2・3月合併号) 地方選――私が立ちます 地域と平和を守りぬきます

●編集 あごら新宿 ●発行 2007年3月20日 ●印刷 藤田印刷(株)

●発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル3F

●TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV 05467@nifty.com

●定価 本体1,200円+税 ●振替 00100-0-5264 BOCあごら編集部



9784893061645



1920036012008

ISBN978-4-89306-164-5

C0036 ¥1200E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1,200円+税

平等と平和を追求する 『あこら』近刊シリーズ

地方選にご出馬の方
地方選挙を支援した方

「あの戦争」の
負の遺産を追求

「少子化」は
本当に問題なのか……

ふえ続ける
パートと派遣

地方選挙をたたかつて

今も残る「戦争」

女性の視点から「少子化」を考える

「女子労働」の問題点

企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —

女性専門職集団

BOC

各種プランニング

各種調査

取材・撮影・編集

校正・デザイン・レイアウト

各国語翻訳その他

男女共同参画の

BOCシニアも

スタートしました。

ベテランの知恵と経験を

お役立てください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354-3941 FAX3354-9014

E-mail XLV05467@nifty.com

サイレントマイノリティのBOC出版